

日本病院薬剤師会東海ブロック・ 日本薬学会東海支部 合同学術大会 2023

臨床と研究の
融合で考える

Pharmacist & Scientist

プログラム・
講演要旨集

会 期 | 2023年 11月12日(日)

会 場 | 名城大学薬学部(八事キャンパス)

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150

大会長 | 山田 成樹 藤田医科大学病院 薬剤部 部長
藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座 教授

主 催 : 愛知県病院薬剤師会・日本薬学会東海支部・日本病院薬剤師会東海ブロック

後 援 : 一般社団法人 日本病院薬剤師会・一般社団法人 愛知県薬剤師会

日本病院薬剤師会東海ブロック・ 日本薬学会東海支部 合同学術大会 2023

第33回 日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会・
令和5年度 日本薬学会東海支部例会

臨床と研究の
融合で考える

Pharmacist & Scientist

プログラム・講演要旨集

会 期 | 2023年 11月12日(日)

会 場 | 名城大学薬学部 (八事キャンパス)
〒468-8503 名古屋市天白区八事山150

大会長 | 山田 成樹
藤田医科大学病院 薬剤部 部長
藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座 教授

主 催 | 愛知県病院薬剤師会
日本薬学会東海支部
日本病院薬剤師会東海ブロック

後 援 | 一般社団法人 日本病院薬剤師会
一般社団法人 愛知県薬剤師会

大会長挨拶



日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部
合同学術大会 2023 大会長

山田 成樹 (藤田医科大学病院 薬剤部 部長
藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座 教授)

拝啓

皆さま、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

この度、日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023 の大会長を拝命しました藤田医科大学病院 薬剤部 山田 成樹です。

今大会のテーマを「臨床と研究の融合で考える ～ Pharmacist & Scientist ～」とさせていただきました。現在の薬学は、明らかに臨床分野と基礎科学分野で隔たりが感じられます。本来の薬学は基礎研究から臨床へ、また臨床から基礎研究へと相互に橋渡しを繰り返しながら創薬、育薬に繋げていく役割を持っていると思います。この役割を実行するためにこれからの薬剤師に求められるのが“Pharmacist & Scientist”だと考えています。また、日本病院薬剤師会と日本薬学会の合同学術大会は全国でも稀な大会であります。このような合同での大会こそが「臨床と研究の融合を考える」良い機会になっているのではないかと考えています。

本大会は病院薬剤師、薬学教員が共同でプログラムを企画・運営しています。例年にならない合同メインシンポジウム、その他特別講演、東海薬学教育コンソーシアムによる FD 企画シンポジウム、共催セミナー等を企画していくつもりであります。さらに一般演題での多くの皆様方にご発表いただき、有意義な大会を目指したいと思っています。

未来の薬剤師である薬学生と薬剤師の素晴らしさを教育する薬学系教員、現在活躍している薬剤師がともに共有でき、活発に意見交換できる大会を作っていきたいと考えています。

現在、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、「after コロナ」の大会を企画していきたいと思っています。4年ぶりの完全集合型大会での開催となるようご支援いただければありがたく思っております。

敬具

組織委員会・実行委員会

大会長 組織委員会			山田 成樹	藤田医科大学病院
			山田 清文	名古屋大学医学部附属病院
実行委員会	委員長 副委員長		鈴木 昭夫	岐阜大学医学部附属病院
			松田 浩明	JCHO 四日市羽津医療センター
	委員		川上 純一	浜松医科大学医学部附属病院
			村木 克彦	愛知学院大学薬学部
			杉浦 洋二	愛知県厚生農業協同組合連合会医療事業部
			古野 忠秀	愛知学院大学薬学部
			村田 富保	名城大学薬学部
			田中 章郎	大同病院
			芦川 直也	豊橋ハートセンター
			有木 寛子	宇野病院
			伊藤 綾子	協立総合病院
			稲垣 正巳	名古屋掖済会病院
			大西 正文	愛知医科大学病院
			奥平 正美	安城更生病院
			加藤 香奈	名古屋共立病院
			木全 司	日赤愛知医療センター名古屋第二病院
			後藤 健志	一宮西病院
			近藤 勝弘	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター
			桜田 宏明	一宮市立市民病院
			佐藤由美子	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
			澤田 昌司	常滑市民病院
			滝本 典夫	刈谷豊田総合病院
		塚本 久之	八千代病院	
		遠山 幸男	トヨタ記念病院	
		長坂 篤志	岡崎市民病院	
		成瀬 徳彦	日赤愛知医療センター名古屋第一病院	
		日比 陽子	名古屋市立大学病院	
		武藤 達也	名鉄病院	
		矢野 亨治	名古屋大学医学部附属病院	
		山田 哲也	公立陶生病院	
		山本 孝枝	豊川市民病院	
		横田 学	半田市立半田病院	
		宮崎 雅之	名古屋大学医学部附属病院	
		宮浦 淳一	八事病院	
		大野 愛	稲沢厚生病院	
		平野 淳	名古屋医療センター	
	水野 智博	藤田医科大学病院		
	中島 健一	愛知学院大学薬学部		
	水野 初	名城大学薬学部		
	今西 進	名城大学薬学部		
	橋本 和宜	名城大学薬学部		
大会総務		加藤さや香	藤田医科大学病院	

参加者の皆様へ

1. 開催形式

現地会場のみでの開催となります。(オンラインライブ配信・オンデマンド配信はございません。)

2. 参加登録方法

■事前参加登録：2023年8月15日(火)～2023年10月31日(火)23:59

自動発券 QR コード送付あり／ランチョンセミナー予約可

ホームページより参加登録・オンライン決済を行なってください。

■当日参加登録：2023年11月1日(水)～2023年11月12日(日)

自動発券 QR コード送付なし／ランチョンセミナー予約不可

当日参加登録受付で参加費をお支払いください。

3. 参加費

参加費区分

一 般	3,000円
大学院博士課程・博士後期課程	500円
学生・大学院博士前期課程	無 料

参加費の課税区分は下記となります。

日本病院薬剤師会または日本薬学会の会員の場合：不課税 非会員：課税(10%)

4. 参加受付のご案内

■事前参加登録の方

場 所：名城大学薬学部 新1号館1階 エントランスホール

時 間：08:30～16:00

■当日参加登録の方

場 所：名城大学薬学部 新3号館1階 ラウンジ

時 間：08:30～16:00

5. ネームカード・参加証・領収書の発行

■事前参加登録の方

参加登録決済完了メールより当日参加用 QR コードを入手いただき、印刷またはスマートフォン(URLを転送)に保存ください。

当日は QR コードを読取機にかざし、ネームカード・参加証明書・領収書をお受け取りください。

同時にランチョンセミナー予約整理券、ドリンク引換券、スイーツ引換券、プログラム・講演要旨集引換券も同時に発券されます。

■当日参加登録の方

記名台に用意してある当日参加登録用紙に必要事項をご記入いただき、当日参加登録受付で参加費をお支払いください。

白紙のネームカードと参加証明書、領収書、ドリンク引換券、スイーツ引換券、プログラム・講演要旨集引換券をお渡しします。

共催セミナー予約券はございません。

6. プログラム・講演要旨集

受付時に参加者に1部配布いたします。

それ以外にご購入希望の方は、受付にて1部2,000円で販売いたします。

※部数に限りがございますので、売り切れの際はご容赦ください。

7. 表彰式・閉会式

場 所：名城大学薬学部 新1号館7階 A 会場

時 間：17:20～17:40

8. 日病薬病院薬学認定薬剤師制度 単位取得

【研修単位シール配布場所】

名城大学薬学部 新1号館1階 エントランスホール

【研修単位シール配布日時】

11:30～14:30

※研修単位シール引換券を単位受付でお渡しください。

※再発行や当日分以外のお渡しはできませんので、ご注意ください。

9. 日本病院薬剤師会 専門・認定薬剤師制度【講習会受講証】の取得について

日本病院薬剤師会 専門・認定薬剤師認定制度に対する【講習会受講証】を以下のシンポジウムにおいて取得することができます。

専門領域シンポジウム① [がん領域]

専門領域シンポジウム② [感染領域]

専門領域シンポジウム③ [妊婦・授乳婦領域]

専門領域シンポジウム④ [HIV 領域]

専門領域シンポジウム⑤ [精神科領域]

【講習会受講証】の取得には以下の要件を必要としますのでご注意ください。

- 会場入り口にて各シンポジウムに関する【成果報告書】を配布します。
- 【成果報告書】の配布時間は14時00分から14時30分までとします。（14時30分以降は配布致しません。）
- シンポジウム終了後に【成果報告書】と交換に日本病院薬剤師会 専門・認定薬剤師認定制度の【講習会受講証】を配布致します。

- 途中退室は認定致しかねますのでご注意ください。
- [講習会受講証] を各専門領域の認定申請に使用する場合には、当日所定の場所で配布される日病薬病院薬学認定薬剤師制度の単位シール(4単位/日)を貼付する必要があります。

10.ランチョンセミナーのご案内

事前参加登録者には、事前予約を受け付けています。

申込締切：10月31日(火) 23:59

※フードロス削減の取り組みとして、予約分のお弁当をご用意いたします。

予定席数が埋まり次第、受付は終了となります。

事前申込の無い方は、当日空席があれば聴講は可能ですが、お弁当のご用意はございませんので、ご注意ください。

11.中小病院・療養病床・診療所・精神科病院業務紹介展示

東海ブロック各県の中小病院・療養病床・診療所・精神科病院の各委員会委員により、薬剤師業務の紹介を行います。是非ご覧ください。

場 所：名城大学薬学部 新1号館3階 ラウンジ

時 間：09:30～16:00

12.ドリンクコーナー(スイーツ引換)

場 所：名城大学薬学部 新1号館3階 ラウンジ

時 間：09:30～16:00

13.クローク

場 所：名城大学薬学部 新1号館1階 117

時 間：08:30～18:00

14.ご注意

会場内でのアナウンスによる呼び出しは行いませんので予めご了承ください。緊急の場合は総合受付もしくは大会本部までお申し出ください。

一般講演の演題名変更は認められません。発表の取り下げ・発表者の変更が生じた場合は速やかに事務局までご連絡ください。

会場内では、携帯電話はマナーモードに設定していただくか、電源をお切りください。

講演の録音・発表スライドの写真・ビデオ撮影は禁止といたしますのでご遠慮ください。

質問のある方は、挙手の上、座長の指示に従い所属・氏名を述べたのち簡潔に発言してください。

キャンパス内は、全面禁煙となっておりますので、喫煙はできません。

会場内では参加証をご着用ください。会場内で参加証の着用がない場合、参加証をご提示していただくこともあります。

座長・演者の皆様へ

1. 座長へのご案内

担当セッション開始10分前までに「次座長席」にご着席ください。

円滑な進行のため、時間厳守にご協力ください。

2. 演者へのご案内

■当日の流れ

- 1) 発表1時間前（早朝は30分前）までに、PC センターにて発表データの受付を完了させてください。

メディアはUSB フラッシュメモリに限ります。それ以外のメディアはご遠慮ください。

※ PC の持ち込みはできませんので、ご注意ください。

【PC 受付場所】 名城大学薬学部 新3号館2階 講義室203

【受付時間】 11月12日（日） 08：30～15：00

- 2) セッション開始10分前までに、「次演者席」にご着席ください。
- 3) ご講演時間になりましたら、座長の進行に従い、講演を開始してください。
- 4) スライド枚数に制限はありませんが、発表時間の厳守をお願いいたします。
 - ・一般演題：発表8分、質疑応答2分
 - ・特別講演、シンポジウム：予めお伝えした時間でお願いします。
 - ・共催プログラム：各共催企業へお問合せください。
- 5) 演台上にタイマーが設置してあります。発表開始からカウントダウンし、発表終了1分前に黄色、終了時に赤色のランプが点灯します。

■発表機材とスライド作成について

- 1) 発表スライドは Microsoft PowerPoint 2013 以降 (Windows) でご作成ください。
- 2) 利益相反 (COI) に関する指針と細則に準じて、タイトルスライドの次 (2枚目) に利益相反 (COI) の状況を開示してください。
- 3) 会場に用意致します PC の OS は Windows10 です。
- 4) フォントは Windows OS 標準のものをご使用ください。それ以外のフォントを使用した場合、文字・段落のずれや文字化け、表示されない等のトラブルが発生する可能性があります。Mac にて作成された場合は、事前に Windows PC でご確認ください。
- 5) 動画、音声、発表者ツールの使用は円滑な進行の妨げとなる為、お断りさせていただきます。
念のため、バックアップ用のデータもご持参ください。
- 6) ファイル名は、演題番号－氏名.pptx (例：O5-1- 山田成樹.pptx) としてください。

3. 発表時における利益相反の開示

発表時には発表演題に関する利益相反状態の自己申告を行ってください。

下記の開示方法をご確認のうえ、講演用動画またはポスター上にご提示くださいますようお願いいたします。

口演発表：演題名、所属、氏名(1枚目)の次(2枚目)に開示

◆利益相反【有】の場合

「演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などがあれば表示してください。」

日本病院薬剤師会東海ブロック・ 日本薬学会東海支部合同学術大会2023 利益相反の開示	
筆頭発表者名： ○○ ○○	
私の今回の演題に関連して、 開示すべき利益相反は以下のとおりです。	
研究費：	○○製薬、△△薬品工業、□□株式会社
役員・顧問職：	◎◎社
株：	□□株式会社
特許使用料：	
講演料：	☆☆ファーマ
寄附講座：	▽▽化学
注意：該当するもの項目のみ記載してください	

◆利益相反【無】の場合

「私は今回の演題に関連して、開示すべき利益相反関係はありません。」

日本病院薬剤師会東海ブロック・ 日本薬学会東海支部合同学術大会2023 利益相反の開示	
筆頭発表者名： ○○ ○○	
私は今回の演題に関連して、 開示すべき利益相反はありません。	

『利益相反(COI)に関する指針』

対象者：筆頭演者および研究責任者(本人ならびに配偶者、一親等の親族、収入・財産を共有する者)

開示の範囲：発表内容に関する事項

開示すべき項目と基準

開示の対象と基準は以下の通りです。

- 1) 企業または営利を目的とした団体の社員、役員、顧問職については、1つの企業または団体からの報酬額が年間100万円以上
- 2) 株の所有については、1つの企業についての1年間の株による利益(配当、売却益の総和)が100万円以上、あるいは当該企業の全株式の5%以上
- 3) 企業または営利を目的とした団体からの特許権使用料が年間100万円以上

- 4) 企業または営利を目的とした団体から、会議の出席（講演・座長）等に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当（講演料など）については、1つの企業または団体からの年間合計が50万円以上
- 5) 企業または営利を目的とした団体がパンフレットなどの執筆に対して支払った原稿料については、1つの企業または団体からの年間の原稿料が合計50万円以上
- 6) 企業または営利を目的とした団体が提供する研究費または奨学寄付金（指定寄付金）については、1つの企業・団体から支払われた総額が年間100万円以上
- 7) 訴訟等に際して企業や営利を目的とした団体から支払われる顧問料及び謝礼については、1つの企業・団体から支払われた総額が年間10万円以上
- 8) 企業や営利を目的とした団体から寄付講座の提供を受け入れている場合、あるいは申告者の給与が寄付講座または企業等からの外部資金によってまかなわれている場合
- 9) 企業や営利を目的とした団体から研究員・非常勤講師・客員教員・社会人大学院生等を受け入れている場合
- 10) その他の報酬（研究とは直接無関係な旅行、贈答品など）については、1つの企業または団体から受けた報酬が年間5万円以上

4. ベストプレゼンテーション賞

当日審査によりベストプレゼンテーション賞を決定します。

下記日時にて受賞者の発表、表彰式を行いますので、ご出席をお願いいたします。

【ベストプレゼンテーション賞表彰式】

日 時：11月12日（日）17:20～

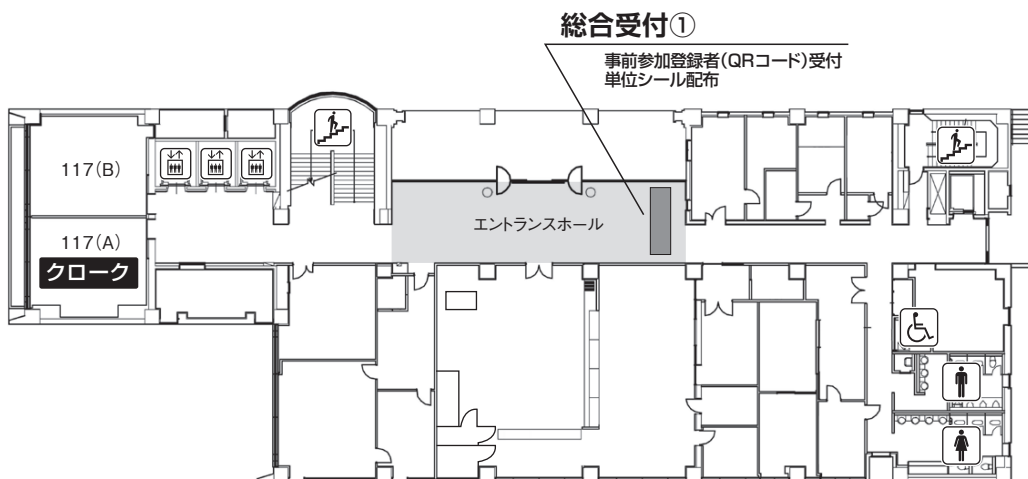
会 場：A 会場

受賞発表：16:00になりましたら、新1号館1階エントランスホールに掲示します。

会場ご案内図

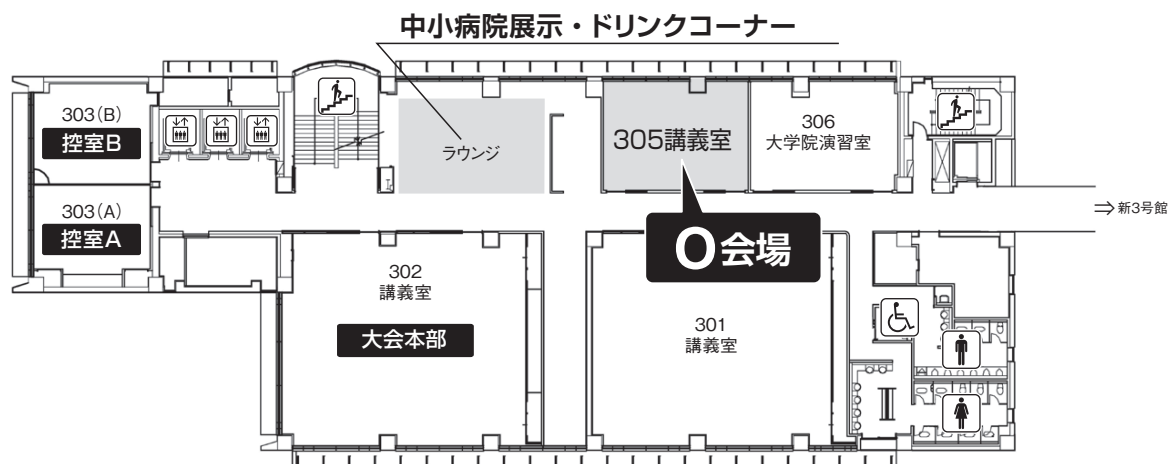
新1号館

1F



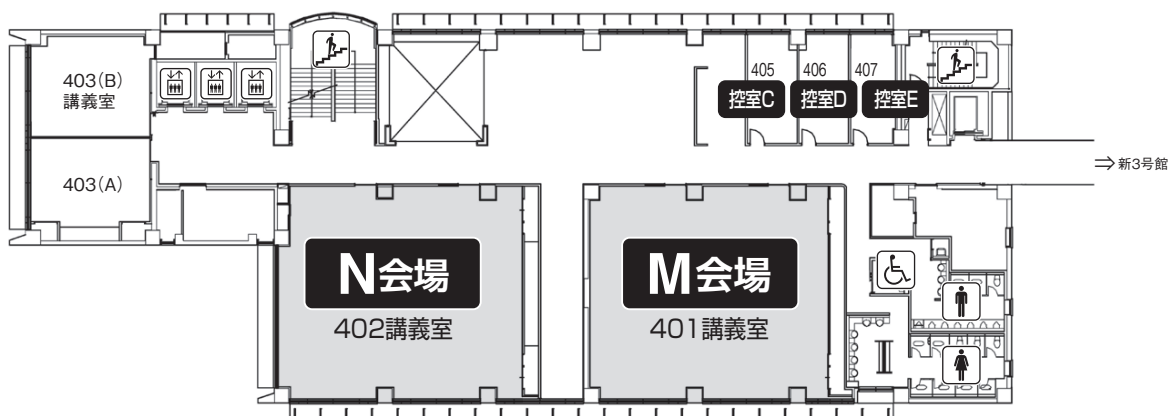
新1号館

3F



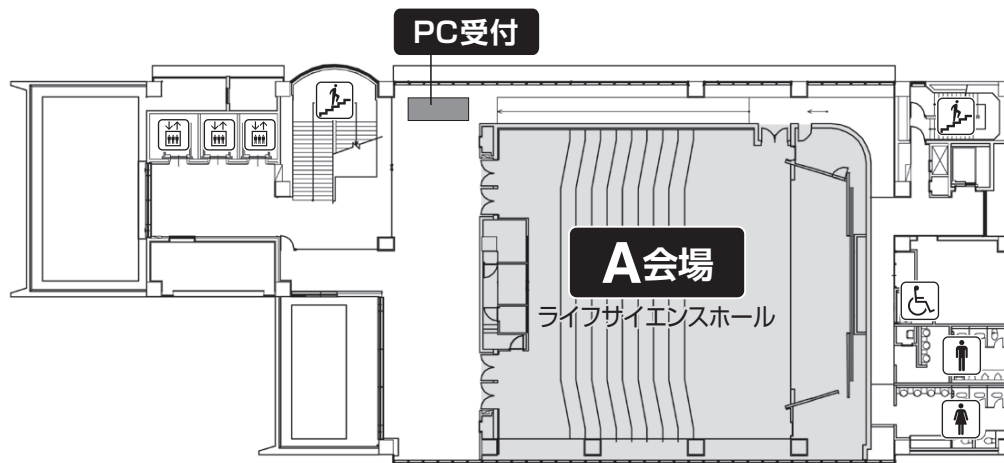
新1号館

4F



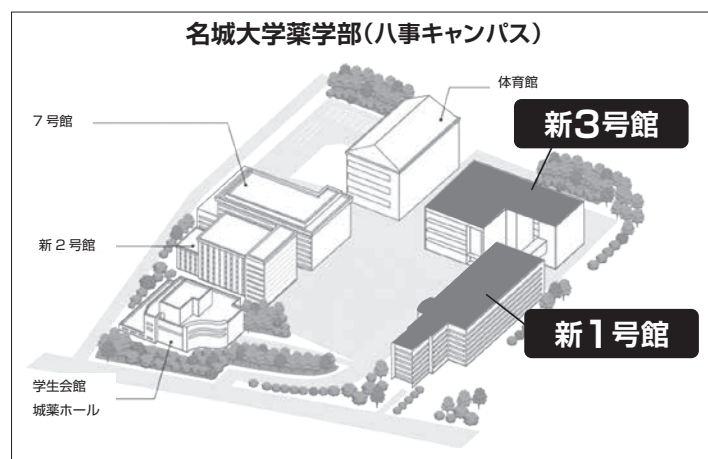
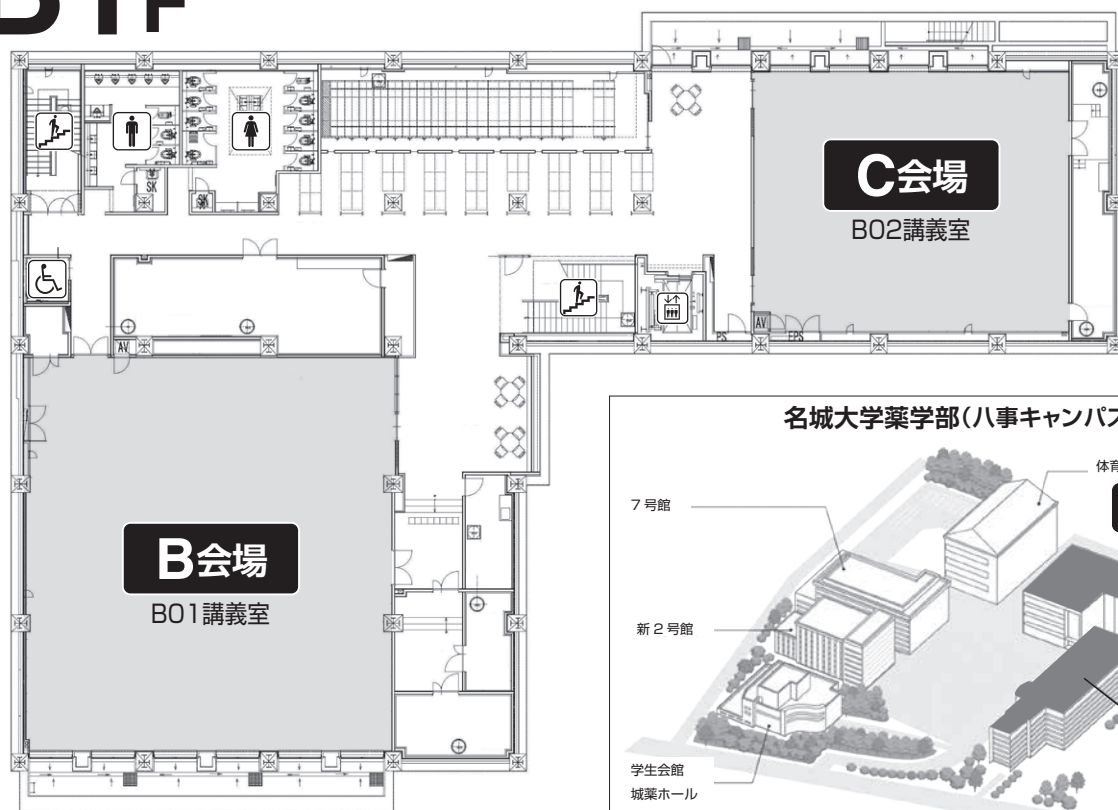
新1号館

7F



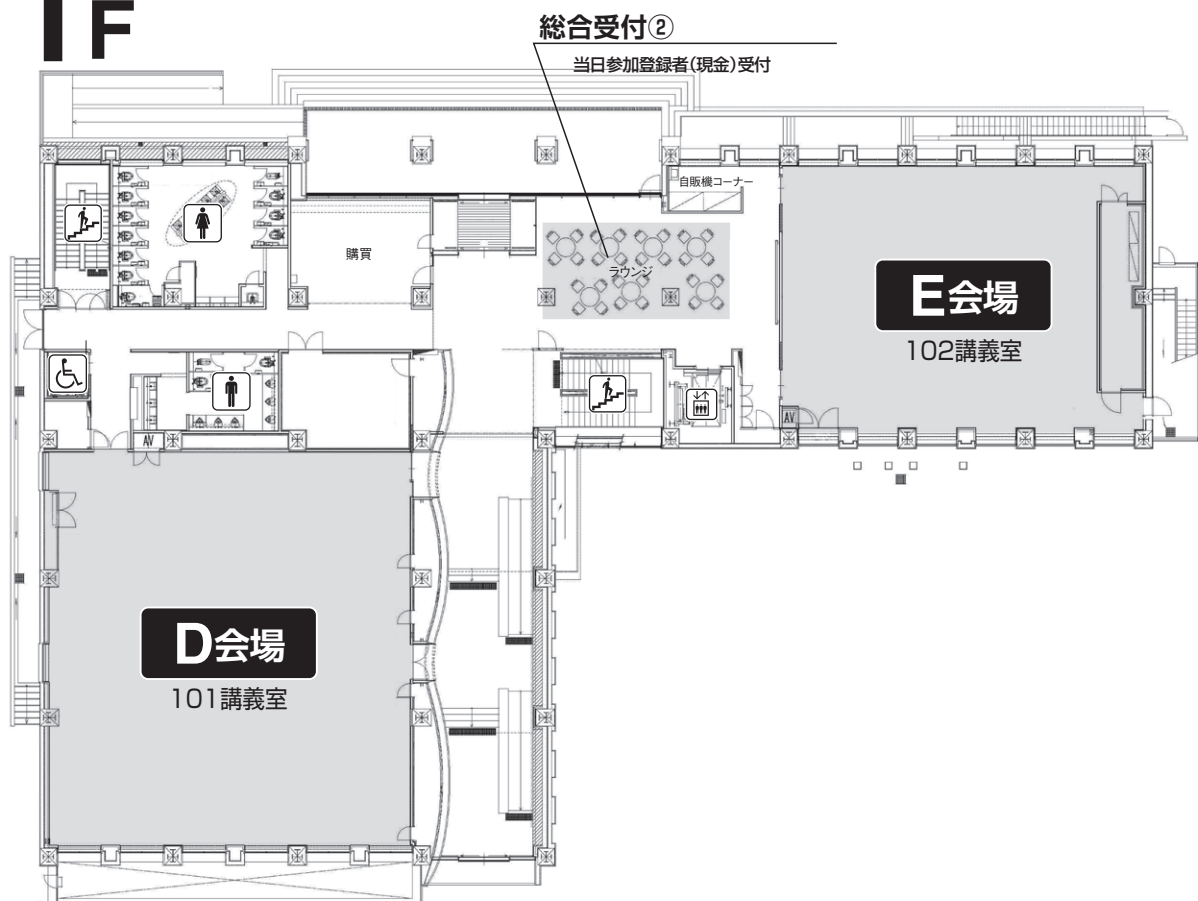
新3号館

B1F



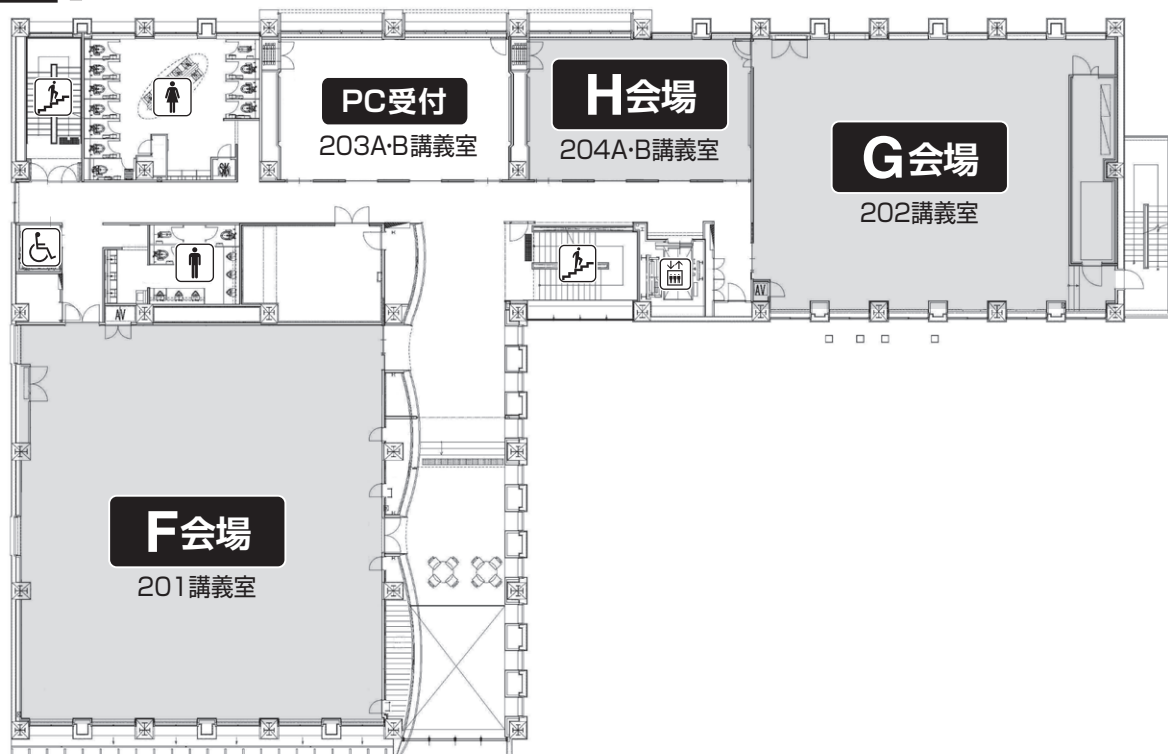
新3号館

1F



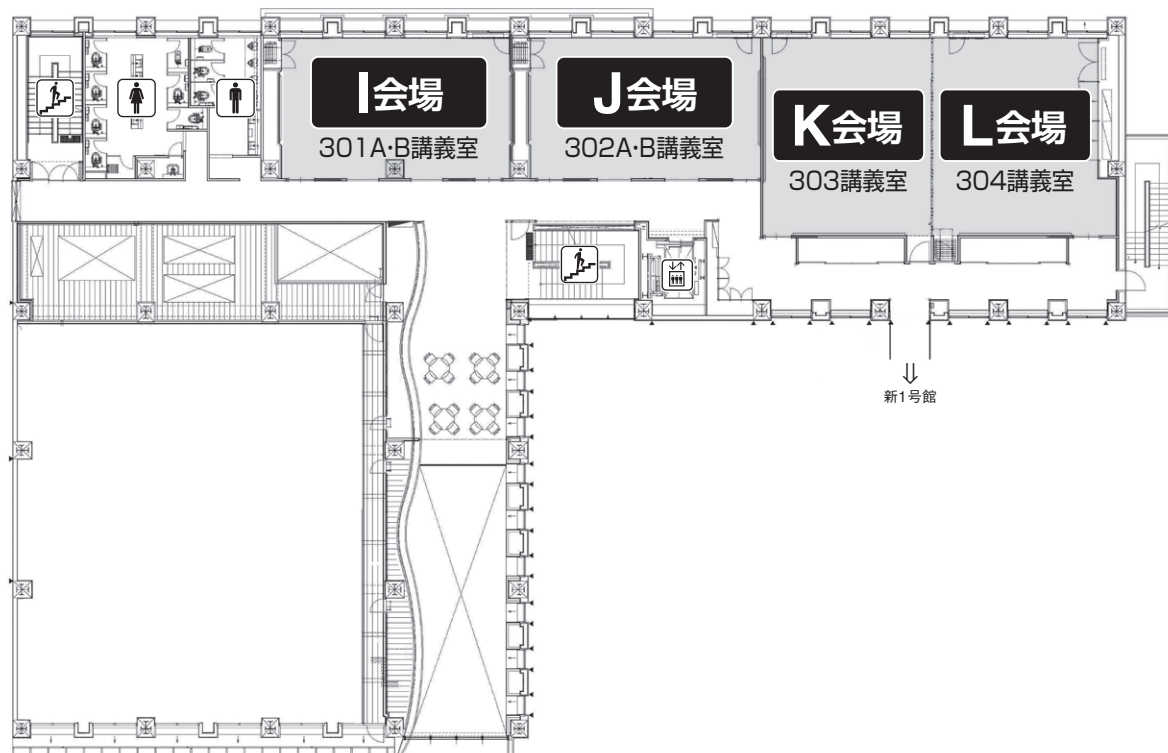
新3号館

2F



新3号館

3F



大会日程

病院薬剤師会 一般演題

薬学会 一般演題

9:00

10:00

11:00

12:00

新1号館 7階	A会場 ライフサイエンスホール	20 開 会 式	FDシンポジウム 新しい時代を支える薬剤師臨床教育を考える 「6年制薬学部教育から卒業教育・生涯研修に向けて」 共催：東海薬学連携コンソーシアム					
新3号館 B1階	B会場 講義室B01		臨床と研究の融合シンポジウム①[感染領域] 抗感染症薬に対するシームレスな研究と臨床の実践			45 ランチョンセミナー 1 45 HER2陽性乳がん治療とアプミを 活用した副作用早期発見の取り組み 共催：中外製薬(株)		
	C会場 講義室B02		共催講演 1 輸液の使用上の注意点について 共催：(株)大塚製薬工場			ランチョンセミナー 2 新たな治療概念、「HER2 低発現乳癌」に対する治療 共催：第一三共(株)		
新3号館 1階	D会場 講義室101		臨床と研究の融合シンポジウム②[医薬品情報領域] 医療の質向上に貢献する医薬品情報の探求と活用			ランチョンセミナー 3 フォーミュラによる医薬品安全 管理の取り組み 単施設から地域へ 共催：エーザイ(株)		
	E会場 講義室102		共催講演 2 突然の大出血をきたす患者 に備えるために 共催：(一社)日本血液製剤機構		一般演題 E-1～E-6 感染制御	ランチョンセミナー 4 長く正しく続けるために ～糖尿病薬物治療 update2023～ 共催：田辺三菱製薬(株)		
新3号館 2階	F会場 講義室201		一般演題 20 F-1～F-5 がん		一般演題 F-6～F-11 がん	ランチョンセミナー 5 創薬の観点から、ミネラルコルチコイド 受容体拮抗薬“フィネレノン”を考察する 共催：バイエル薬品(株)		
	G会場 講義室202		一般演題 G-1～G-5 感染制御		一般演題 G-6～G-11 がん	ランチョンセミナー 6 炎症性腸疾患治療の進歩 ～多様化するAdvanced Therapy～ 共催：アヅヴィ(同)		
	H会場 講義室204		一般演題 H-1～H-5 CKD・薬学教育		一般演題 H-6～H-11 精神／妊婦・授乳婦			
新3号館 3階	I会場 講義室301		一般演題 10 20 I-1～I-4 タスク・シフト ／シェア		一般演題 I-5～I-11 周術期			
	J会場 講義室302		一般演題 J-1～J-5 化学系		一般演題 J-6～J-11 医療系・生物系			
	K会場 講義室303		一般演題 K-1～K-5 医療系		一般演題 K-6～K-11 医療系			
	L会場 講義室304					45 日本薬学会 東海支部幹事会 45		
新1号館 4階	M会場 講義室401		一般演題 20 M-1～M-5 生物系		一般演題 M-6～M-11 生物系			
	N会場 講義室402		一般演題 N-1～N-5 生物系		一般演題 N-6～N-11 生物系			
新1号館 3階	O会場 講義室305					45 病薬東海ブロック 中小・診療所・療養・ 精神科担当会議 45		

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
共催講演 3 循環器疾患における抗血栓療法と消化管出血について 共催：武田薬品工業(株)	10 共催講演 7 肝細胞癌に対する薬物療法の最新情報 irAE 早期発見・早期治療のための3本の矢 共催：アストラゼネカ(株)	20	20 特別講演 薬剤師の職能拡大と資質向上を目指して 一医師との協働のために一 演者：武田 泰生	20	表彰式・閉会式
共催講演 4 高齢者悪性リンパ腫の最新治療 ～造血器腫瘍ガイドラインから考える～ 共催：東和薬品(株)	10 専門領域シンポジウム① [がん領域] ハイリスク患者の化学療法の治療管理 共催：大鵬薬品工業(株)	10			
一般演題 C-1～C-6 感染制御・薬物動態 (PK/PDを含む)	専門領域シンポジウム② [感染領域] 薬剤師業務において 感染症との関わり方のエッセンスを学ぶ				
共催講演 5 バイオシミラー使用促進の意義と導入事例 共催：あゆみ製薬(株)	専門領域シンポジウム③ [妊婦・授乳婦領域] 糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病 共催：ノボ ノルディスク ファーマ(株)				
一般演題 E-7～E-12 感染制御	専門領域シンポジウム④ [HIV 領域] HIV 診療 update ～薬剤師が最低限押さえておくべき HIV 診療の“いろは”～				
共催講演 6 大学病院における バイオシミラー導入の実際 共催：日本化薬(株)	専門領域シンポジウム⑤ [精神科領域] 精神科ポリファーマシー症例の具体的な減薬方法 共催：ヤンセンファーマ(株)				
一般演題 G-12～G-17 がん	10 一般演題 G-18～G-23 糖尿病・病棟業務	10 20 一般演題 G-24～G-27 病棟業務			
一般演題 H-12～H-17 その他	一般演題 H-18～H-23 その他	一般演題 H-24～H-27 その他			
一般演題 I-12～I-17 がん・地域連携	一般演題 I-18～I-23 医薬品管理・リスクマネジメント・調剤	20 一般演題 I-24～I-28 調剤	10		
一般演題 J-12～J-17 物理系	一般演題 J-18～J-23 緩和医療				
一般演題 K-12～K-17 医療系	一般演題 K-18～K-23 医療系				
一般演題 M-12～M-17 生物系	10 一般演題 M-18～M-23 生物系	10			
一般演題 N-12～N-17 生物系	一般演題 N-18～N-23 生物系				

プログラム

特別講演

A 会場（ライフサイエンスホール） 16:20～17:20

座長：山田 成樹（藤田医科大学病院 薬剤部／藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学）

薬剤師の職能拡大と資質向上を目指して ―医師との協働のために―

武田 泰生 一般社団法人 日本病院薬剤師会

FD FD シンポジウム

A 会場（ライフサイエンスホール） 9:30～11:30

オーガナイザー：鈴木 匡（名古屋市立大学大学院 薬学研究科）

座長：鈴木 匡（名古屋市立大学大学院 薬学研究科）

山田 成樹（藤田医科大学病院 薬剤部／藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学）

新しい時代を支える薬剤師臨床教育を考える 「6年制薬学部教育から卒後教育・生涯研修に向けて」

FD-1 改訂モデルコアカリキュラムを踏まえた新カリキュラム ―プロフェッショナリズムの醸成のために―

長谷川 洋一 名城大学 薬学部

FD-2 鈴鹿医療科学大学における薬剤師教育の現状報告

三輪 高市 鈴鹿医療科学大学 薬学部

FD-3 三重県における、薬局薬剤師の実務実習・卒後教育の現状と展望について

中村 文彦 （一社）三重県薬剤師会 学生実習受入委員会

FD-4 岐阜県における実務実習の実施状況と課題

高島 英滋 岐阜県薬剤師会 実務実習委員会

FD-5 病院における薬学生実務実習の現状と課題

武藤 達也 名鉄病院 薬剤部

FD-6 病院薬剤師の学生実習、卒後研修の現状と展望

大滝 由美 静岡県立総合病院 薬剤部

共催：東海薬学教育連携コンソーシアム

SS1 臨床と研究の融合シンポジウム①【感染領域】

B 会場（講義室 B01） 9:30～11:30

オーガナイザー&座長：奥平 正美（安城更生病院 薬剤部）

塩田 有史（愛知医科大学病院 薬剤部）

抗感染症薬に対するシームレスな研究と臨床の実践

SS1-1 臨床と基礎の融合 ―医療薬学の未来を拓くリバーストランスレーショナルリサーチ―

石原 正志 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部

SS1-2 抗菌薬の薬物動態・薬力学に関する研究とTDM研究から学んだこと

堀田 康弘 名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬剤学
名古屋市立大学病院 薬剤部
名古屋市立大学病院 感染制御部

SS1-3 私が考える感染症領域における臨床と研究について ～大学教員の立場から～

稲垣 孝行 名城大学 薬学部 実践薬学Ⅰ

SS1-4 感染制御における人材育成と臨床研究について考える ～今後の課題も踏まえて～

木村 匡男 社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院 診療関連部 薬剤管理課

SS2 臨床と研究の融合シンポジウム②【医薬品情報領域】

D会場(講義室101) 9:30～11:30

オーガナイザー&座長：大津 史子(名城大学 薬学部)
澤田 和久(安城更生病院 薬剤部)

医療の質向上に貢献する医薬品情報の探求と活用

SS2-1 脳神経疾患におけるファーマシューティカルケア： 一次資料の必要性和効果的な活用

安高 勇気 福岡大学薬学部病院 薬学研究室・福岡大学病院 薬剤部

SS2-2 緩和薬物療法における一次資料の活用方法 ～薬学管理から臨床研究へつなげよう～

杉本 智哉 トヨタ記念病院 薬剤科

SS2-3 基礎データと臨床データの融合による キナーゼ阻害と有害事象の関連性の可視化とその臨床応用

水野 貴仁 公立陶生病院 医療技術局 薬剤部

SS2-4 医薬品情報学研究のレゾナードール

酒井 隆全 名城大学 薬学部 医薬品情報学研究室

ES1 専門領域シンポジウム①【がん領域】

B会場(講義室B01) 14:10～16:10

オーガナイザー：宮崎 雅之(名古屋大学医学部附属病院 薬剤部)
座長：宮崎 雅之(名古屋大学医学部附属病院 薬剤部)
佐々木 俊則(三河乳がんクリニック 薬剤部)

ハイリスク患者の化学療法の治療管理

ES1-1 がん患者の化学療法時における高齢者機能評価 ～乳がん領域を中心に～

川原田 祐貴 名古屋大学医学部附属病院 薬剤部

ES1-2 がん化学療法・制吐療法とポリファーマシーについて

安藤 洋介 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学

ES1-3 がん化学療法関連死を最小限に防ぐために、薬剤師ができることは何か？

伴 晶子 公立西知多総合病院 診療技術局 薬剤科

ES1-4 CINV の完全克服を目指して ～ NK1 受容体拮抗薬の UPDATE ～

西村 潤一 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 消化器外科

ES1-5 ハイリスクがん患者の薬物治療管理について

三嶋 秀行 愛知医科大学 名誉教授・東大阪がん総合研究所

共催：大鵬薬品工業株式会社

ES2 専門領域シンポジウム②【感染領域】

C 会場（講義室 B02） 14：10～16：10

オーガナイザー&座長：奥平 正美（安城更生病院 薬剤部）

塩田 有史（愛知医科大学病院 薬剤部）

薬剤師業務において感染症との関わり方のエッセンスを学ぶ

ES2-1 周術期抗菌薬の適正使用に必要な知識と応用

篠田 康孝 大垣市民病院 薬剤部

ES2-2 小児における感染症への関わり方

加藤 善章 名古屋大学医学部附属病院 薬剤部

ES2-3 抗がん薬治療における感染症への関わり方

望月 敬浩 静岡県立静岡がんセンター RMQC 室

ES2-4 病棟業務における感染症への関わり方

佐々木 暢琢 社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院 薬剤管理課

ES3 専門領域シンポジウム③【妊婦・授乳婦領域】

D 会場（講義室 101） 14：10～16：10

オーガナイザー：大野 愛（JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 薬剤部）

座長：川端 加恵（トヨタ記念病院 薬剤科）

酒井 隆全（名城大学 薬学部 医薬品情報学研究室）

糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病

ES3-1 最近の糖尿病治療薬について：糖尿病療養指導士である薬剤師の視点から

宇野 英理子 愛知医科大学病院 薬剤部

ES3-2 周産期における糖尿病治療薬の情報と血糖に影響を与える医薬品について ～妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の視点から～

大野 愛 JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 薬剤部

ES3-3 糖代謝異常と妊娠

篠田 純治 トヨタ記念病院 内分泌・糖尿病内科

共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

ES4 専門領域シンポジウム④【HIV 領域】

E 会場（講義室 102） 14:10～16:10

オーガナイザー：平野 淳（国立病院機構 名古屋医療センター 薬剤部）

座長：平野 淳（国立病院機構 名古屋医療センター 薬剤部）

森 尚義（鈴鹿医療科学大学 薬学部）

HIV 診療 update

～薬剤師が最低限押さえておくべき HIV 診療の“いろは”～

ES4-1 HIV 陽性者の現状

～HIV 感染症が慢性疾患となった今、薬剤師はどう生きるか～

松岡 梨恵 国立病院機構 名古屋医療センター 薬剤部

ES4-2 抗 HIV 薬の基本の“き”

山崎 郁真 浜松医療センター

ES4-3 これからスタート！ HIV/日和見感染症：薬剤師のための実践ガイド

服部 公紀 伊勢赤十字病院 薬剤部

ES4-4 HIV 陽性者を取り巻く非エイズ関連合併症と薬剤師の役割

石原 正志 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部

ES5 専門領域シンポジウム⑤【精神科領域】

F 会場（講義室 201） 14:10～16:10

オーガナイザー：宇野 準二（医療法人なるみ会 第一なるみ病院）

座長：宇野 準二（医療法人なるみ会 第一なるみ病院）

原田 真理子（刈谷病院 薬剤科）

精神科ポリファーマシー症例の具体的な減薬方法

ES5-1 多剤併用療法は「悪」なのか？

～「意味のある併用」と「意味のない併用」を考える～

森 康浩 愛知医科大学 精神科学講座

ES5-2 抗精神病薬の減薬方法について

濱田 裕之 医療法人一草会 一ノ草病院

ES5-3 抗パーキンソン薬の減量方法について

廣瀬 健一郎 医療法人桜桂会 犬山病院

ES5-4 抗不安薬・睡眠薬の減量方法について

宮浦 淳一 医療法人資生会 八事病院

共催：ヤンセンファーマ株式会社

ランチョンセミナー1

B会場(講義室 B01) 11:45～12:45

座長：桜田 宏明(一宮市立市民病院 薬剤局)

HER2 陽性乳がん治療とアプリを活用した副作用早期発見の取り組み

平田 宗嗣

藤田医科大学 医学部 乳腺外科学講座

共催：中外製薬株式会社

ランチョンセミナー2

C会場(講義室 B02) 11:45～12:45

座長：松田 日出三(藤田医科大学病院 薬剤部)

新たな治療概念、「HER2 低発現乳癌」に対する治療

服部 正也

愛知県がんセンター

共催：第一三共株式会社

ランチョンセミナー3

D会場(講義室 101) 11:45～12:45

座長：松田 浩明(JCHO 四日市羽津医療センター 薬剤部)

フォーミュラリによる医薬品安全管理の取り組み 単施設から地域へ

加藤 さや香

藤田医科大学病院 薬剤部

共催：エーザイ株式会社

ランチョンセミナー4

E会場(講義室 102) 11:45～12:45

座長：武藤 達也(名鉄病院 薬剤部)

長く正しく続けるために ～糖尿病薬物治療 update2023～

鈴木 敦詞

藤田医科大学 医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学

共催：田辺三菱製薬株式会社

ランチョンセミナー5

F会場(講義室 201) 11:45～12:45

座長：太田 秀基(藤田医科大学岡崎医療センター 薬剤部)

創薬の観点から、 ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬“フィネレノン”を考察する

菅沼 正司

菅沼医院/ルカ・サイエンス株式会社/北海道大学大学院 薬学研究院

共催：バイエル薬品株式会社

炎症性腸疾患治療の進歩 ～多様化する Advanced Therapy～

佐々木 誠人 愛知医科大学 消化管内科

共催：アッヴィ 合同会社

共催講演 1

C 会場（講義室 B02） 9:30～10:30

輸液の使用上の注意点について

相馬 正芳 株式会社 大塚製薬工場 学術部

共催：株式会社 大塚製薬工場

共催講演 2

E 会場（講義室 102） 9:30～10:30

座長：水野 智博（藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学）

突然の大出血をきたす患者に備えるために
～後天性血友病 A（AHA）の診断と治療～

福武 勝幸 荻窪病院 血液凝固科

共催：一般社団法人 日本血液製剤機構

共催講演 3

A 会場（ライフサイエンスホール） 13:00～14:00

座長：横田 学（半田市立半田病院 薬剤科）

循環器疾患における抗血栓療法と消化管出血について

天野 哲也 愛知医科大学 循環器内科

共催：武田薬品工業株式会社

共催講演 4

B 会場（講義室 B01） 13:00～14:00

座長：木全 司（日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 薬剤部）

高齢者悪性リンパ腫の最新治療 ～造血器腫瘍ガイドラインから考える～

満間 綾子 名古屋大学医学部附属病院 化学療法部

共催：東和薬品株式会社

共催講演 5

D 会場（講義室 101） 13:00～14:00

座長：松田 浩明（JCHO 四日市羽津医療センター 薬剤部）

バイオシミラー使用促進の意義と導入事例： 医薬品関連の最近の政策を含めて

川上 純一 浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部

共催：あゆみ製薬株式会社

共催講演 6

F 会場（講義室 201） 13:00～14:00

座長：鈴木 昭夫（岐阜大学医学部附属病院 薬剤部）

大学病院におけるバイオシミラー導入の実際 ～群馬大学医学部附属病院における BS の導入事例～

荒木 拓也 群馬大学大学院 医学系研究科 臨床薬理学講座

共催：日本化薬株式会社

共催講演 7

A 会場（ライフサイエンスホール） 14:10～15:20

座長：山田 成樹（藤田医科大学病院 薬剤部／藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学）

肝細胞癌に対する薬物療法の最新情報 ―有害事象マネジメントを中心に―

葛谷 貞二 藤田医科大学 医学部 消化器内科学

irAE 早期発見・早期治療のための 3 本の矢

野口 哲男 市立長浜病院 呼吸器内科

共催：アストラゼネカ株式会社

一般演題 プログラム

感染制御・薬物動態(PK/PDを含む)

C会場(講義室 B02) 13:00～14:00

座長：滝 久司(国立病院機構 東名古屋病院 薬剤部)
丹羽 隆(岐阜大学医学部附属病院 薬剤部)

C-1 小児のバンコマイシン治療における初期投与設計 PAT を用いたシミュレーションとガイドラインの妥当性に関する検討

○長谷川 真由、梅村 拓巳、松本 真依子、後藤 俊晃、山田 哲也
公立陶生病院

C-2 1点採血 AUC 値に基づいたバンコマイシン投与設計の有用性

○小野 友利恵¹⁾、丹羽 隆²⁾、山田 悠人²⁾、大坪 愛実²⁾、鷺見 和之²⁾、小林 亮¹⁾²⁾、鈴木 昭夫¹⁾²⁾
1)岐阜薬科大学、2)岐阜大学医学部附属病院

C-3 グラム陽性菌に感染した小児患者におけるバンコマイシンの目標トラフ濃度と臨床転機との関連：メタ解析

○加藤 秀雄¹⁾²⁾³⁾、萩原 真生³⁾⁴⁾、三嶋 廣繁³⁾、岩本 卓也¹⁾²⁾
1)三重大学医学部附属病院 薬剤部、2)三重大学大学院 医学系研究科 臨床薬理学、
3)愛知医科大学病院 感染症科、4)愛知医科大学 分子疫学・疾病制御寄附講座

C-4 マンニトール注の併用によりバンコマイシンの血中濃度が低値となった1例

○岩田 聡、松山 加奈絵、鰐田 芽未、太田 達也、田中 章郎
社会医療法人宏潤会 大同病院 薬剤部

C-5 ナルフラフィン開始によりせん妄症状が出現した血液透析の1例

○小倉 航平、芹澤 哲郎、鈴木 彩華、長沼 美代子
国際医療福祉大学熱海病院

C-6 抗てんかん薬血中濃度測定に関わる特定薬剤治療管理料への薬剤師の関与

○中田 淳也¹⁾²⁾、松浦 功貴¹⁾、南雲 達¹⁾、鈴木 躍士¹⁾、小島 光²⁾、原田 晴司¹⁾
1)静岡市立清水病院 薬剤部、2)静岡市立清水病院 脳神経外科

感染制御

E会場(講義室 102) 10:30～11:30

座長：和知野 千春(名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬理学分野(東部医療センター))
中根 茂喜(JCHO 可児とうのう病院 薬剤部)

E-1 新型コロナウイルス感染症治療薬の使用実績調査と薬剤師の関わり

○杉山 和弥、柴田 大地、菅原 さやか、滝本 典夫
医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院

E-2 新型コロナウイルス治療薬の処方動向の比較検討

○林 豊、加藤 純
焼津市立総合病院 薬剤部

- E-3** 当院入院症例における COVID-19 治療薬の使用実績調査と薬剤師の介入について
○大野 航輝¹⁾、前川 真己¹⁾²⁾、佐々木 貴之¹⁾²⁾、中園 裕利華¹⁾²⁾、加藤 恵一¹⁾、白木 克哉²⁾
1) 三重県立総合医療センター・薬剤部、2) 三重県立総合医療センター・抗菌薬適正使用支援チーム
- E-4** 新型コロナウイルス感染症患者に出現したワルファリンとモルヌピラビルの相互作用
○水谷 日花里¹⁾、窪田 知仁¹⁾、加藤 公人¹⁾、西川 嘉広¹⁾、川崎 好人¹⁾、大森 加奈子¹⁾、
橋本 陽¹⁾、小出 哲朗¹⁾、大村 崇²⁾、伊藤 久美子¹⁾
1) 地方独立行政法人 桑名市総合医療センター 薬剤部
2) 地方独立行政法人 桑名市総合医療センター 循環器内科
- E-5** チキサゲビマブ及びシルガビマブ使用後の新型コロナウイルス感染発症の実態調査
○嶋 俊弥、上田 秀親、元田 美佳、政井 恵、洞口 拓也、井上 昇、早瀬 直輝、福野 賢二、
阪下 健太郎、若田 達朗
日本赤十字社 高山赤十字病院
- E-6** 廃棄物の適正化による感染性廃棄物の排出量減少効果について
○飯田 拓真¹⁾⁵⁾、木平 香織¹⁾⁵⁾、西岡 智美²⁾⁵⁾、山川 浩明²⁾⁵⁾、西岡 まゆみ³⁾⁵⁾、
山内 みゆき³⁾⁵⁾、関根 隆夫⁴⁾⁵⁾、谷口 賢二¹⁾
1) JA 三重厚生連 松阪中央総合病院 薬剤部、2) JA 三重厚生連 松阪中央総合病院 看護部、
3) JA 三重厚生連 松阪中央総合病院 検査部、4) JA 三重厚生連 松阪中央総合病院 血液腫瘍内科、
5) JA 三重厚生連 松阪中央総合病院 ICT

感染制御

E 会場 (講義室 102) 13:00～14:00

座長：梅村 拓巳(公立陶生病院 薬剤部)
松岡 知子(大垣市民病院 薬剤部)

- E-7** ESBL 産生大腸菌による菌血症に対しての抗菌薬使用状況調査
○市瀬 雄一、佐藤 誠一、伊藤 洸介、桃原 周杜、北澤 勇太
飯田市立病院
- E-8** メロペネム製剤の供給制限下における代替薬リストを用いた処方後のモニタリングと
フィードバックによる影響
○丸山 浩平¹⁾、関谷 潔史¹⁾³⁾、柳田 紀之¹⁾⁴⁾、安田 秀平¹⁾⁵⁾、福元 大介¹⁾⁶⁾、細谷 智¹⁾⁷⁾、
森谷 宏光¹⁾⁸⁾、川邊 元子²⁾、森 達也²⁾
1) 国立病院機構 相模原病院 抗菌薬適正使用支援チーム、2) 国立病院機構 相模原病院 薬剤部、
3) 国立病院機構 相模原病院 アレルギー・呼吸器内科、4) 国立病院機構 相模原病院 小児科、
5) 国立病院機構 相模原病院 臨床検査科、6) 国立病院機構 相模原病院 看護部、
7) 国立病院機構 相模原病院 救急科、8) 国立病院機構 相模原病院 外科
- E-9** 薬剤師主導の Antimicrobial Stewardship による早期モニタリングとフィードバックが
抗菌薬使用に及ぼす影響の検討
○大塩 崇次¹⁾、松永 保²⁾、幸田 清子³⁾、山口 美由紀³⁾、吉田 裕希⁴⁾、森山 武志⁴⁾、
宮崎 美子¹⁾、福田 稔¹⁾、藤田 裕晃⁵⁾
1) 医療法人社団東光会 戸田中央総合病院、2) 医療法人社団東光会 戸田中央総合病院 小児科、
3) 医療法人社団東光会 戸田中央総合病院 看護部、4) 医療法人社団東光会 戸田中央総合病院 臨床検査科、
5) 東京医科大学病院 感染症科

- E-10** タゾバクタム／ピペラシリンおよびバンコマイシンの併用による
急性腎障害の回避に向けた薬剤師介入の評価
○三羽 伸明、大橋 健吾、篠田 康孝、新井 かおり、堀田 奈央、松岡 知子、木村 美智男、
宇佐美 英績
大垣市民病院 薬剤部
- E-11** 当院における AST 活動の成果と今後の課題
○中尾 慎太郎¹⁾、長嶋 一泰¹⁾、蓮井 亮¹⁾、森 春樹²⁾
1) 独立行政法人労働者健康安全機構 旭労災病院、2) 独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院
- E-12** 推定菌早期報告システム構築による抗菌薬適正使用への影響
○加藤 一雲¹⁾、吉村 昌紘¹⁾、坂野 昌志¹⁾、杉浦 茂樹¹⁾、竹内 章²⁾
1) 名古屋セントラル病院 薬剤科、2) 名古屋セントラル病院 呼吸器内科

がん

F 会場（講義室 201） 9:30～10:20

座長：宮崎 雅之（名古屋大学医学部附属病院 薬剤部）

佐藤 由美子（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 薬剤部）

- F-1** 日米医薬品副作用データベースを用いた免疫チェックポイント阻害薬による
間質性肺疾患抑制薬の探索
○宇都宮 彩花、古関 竹直、波多野 正和、山田 成樹
藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学
- F-2** JADER を用いた免疫チェックポイント阻害薬関連血栓性微小血管障害（TMA）の
発現頻度調査
○加藤 滉基、水野 智博、古関 竹直、中井 剛、波多野 正和、山田 成樹
藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学
- F-3** 悪性リンパ腫に対する Pola-R-CHP 療法におけるリアルワールドデータの後方視的検討
○西澤 美涼¹⁾、伊藤 佳織¹⁾²⁾³⁾、水野 智博¹⁾、山本 秀行³⁾、岡本 晃直³⁾、後藤 尚絵³⁾、
入山 智沙子³⁾、山田 成樹¹⁾、早川 伸樹²⁾、富田 章裕³⁾
1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学、2) 名城大学 薬学部、3) 藤田医科大学 医学部 血液内科学
- F-4** 抗がん薬混合調製ロボットの稼働状況と今後の展望
○小川 純明、川原田 祐貴、片岡 智美、阪井 祐介、倉地 茜、井上 理香子、八木 聡美、
宮崎 雅之、溝口 博之、山田 清文
名古屋大学医学部附属病院
- F-5** 当院のがん化学療法における閉鎖式薬物移送システム（CSTD）の全面導入に向けた
取り組みについて
○鈴木 康夫、山本 孝枝、川崎 貴蔵、竹下 充哉、平松 克代、加納 明紀
豊川市民病院

座長：佐々木 俊則（三河乳がんクリニック 薬剤部）
堀田 和男（愛知医科大学病院 薬剤部）

F-6 肝細胞がん患者におけるレンバチニブ開始時の予防的なステロイド外用による手足症候群発症頻度の比較

○吉田 弘樹、高原 悠子、鈴木 雅人、牧原 明秀、三屋 良太、近藤 舞子、木全 司
日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第二病院

F-7 婦人科がんにおけるパクリタキセルの末梢神経障害に対する牛車腎気丸の有効性の検討

○長田 日菜子¹⁾、加藤 博史¹⁾²⁾、夏目 彩佳¹⁾、富田 真紀¹⁾³⁾、溝口 博之¹⁾、山田 清文¹⁾
1) 名古屋大学医学部附属病院 薬剤部、2) 藤田医科大学 医学部 臨床研究・開発教育学、
3) 東京曳舟病院 薬剤課

F-8 パクリタキセル投与時における末梢神経障害へのアイシングの有効性

○千葉 佐和子、本間 崇正、鳥居 昌太、江崎 秀樹、榊原 隆志、滝本 典夫
刈谷豊田総合病院

F-9 当院におけるアベマシクリブによる消化器症状と支持療法の実態調査

○末松 菜月¹⁾、櫛原 秀之¹⁾、角田 伸行²⁾、後藤 康友²⁾、成瀬 徳彦¹⁾
1) 日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第一病院 薬剤部、
2) 日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第一病院 乳腺外科

F-10 ペルツズマブによる下痢に関する日本人乳癌患者を対象とした後方視的検討

○堀 雅之¹⁾、中村 大学¹⁾、竹本 竜平¹⁾、堀田 祐志¹⁾³⁾、近藤 勝弘²⁾³⁾、日比 陽子¹⁾³⁾
1) 名古屋市立大学病院 薬剤部、2) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 薬剤部、
3) 名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬学分野

F-11 頭頸部がん患者の放射線誘発性口腔粘膜炎に対するオピオイド鎮痛薬用量に着目した食事形態の選択方法の確立

○山本 和輝¹⁾、八木 達也¹⁾、星川 昂平¹⁾、神谷 正貴²⁾、堀 雄史¹⁾、川上 純一¹⁾
1) 浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部、2) 浜松医科大学医学部附属病院 放射線部

座長：小林 義和（公立西知多総合病院 薬剤科）
坂野 昌志（名古屋セントラル病院 薬剤科）

G-1 日本医薬品副作用データベースを用いた抗 CD20 抗体併用ベンダムスチンのサイトメガロウイルス感染症発現シグナル、発現時期解析

○伊藤 佳織¹⁾²⁾³⁾、古関 竹直²⁾、守作 美咲²⁾、山田 成樹²⁾、早川 伸樹¹⁾
1) 名城大学薬学部、2) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座、3) 藤田医科大学 医学部 血液内科学講座

G-2 眼科病棟薬剤師の介入が有用であった真菌性角膜炎の一例

○水野 有紀、柴田 祐一、手塚 剛彦、木下 功、大西 正文
愛知医科大学病院 薬剤部

- G-3** β -ラクタム系抗菌薬による腎盂腎炎の短期間治療に関する後方視的評価
○杉村 聡¹⁾、高岡 龍蔵¹⁾、渡邊 崇平¹⁾、大池 恵生²⁾、遠山 幸男¹⁾、久田 達也¹⁾
1) トヨタ記念病院 薬剤科、2) トヨタ記念病院 感染管理グループ
- G-4** ダプトマイシン使用におけるクレアチンキナーゼ上昇の発症状況および関連因子の調査
○伊藤 和子、柴田 祐一、塩田 有史、大西 正文
学校法人 愛知医科大学病院
- G-5** 愛知県病院薬剤師会における専門薬剤師教育委員会 感染制御部会の活動報告
～継続した講演会や症例検討会の実施による成果の検討～
○梅村 拓巳¹⁾²⁾、奥平 正美¹⁾²⁾、天野 哲史¹⁾²⁾、伊東 健司¹⁾²⁾、加藤 善章¹⁾²⁾、塩田 有史¹⁾²⁾、
山口 智江¹⁾²⁾、和知野 千春¹⁾²⁾、桜田 宏明¹⁾²⁾、山田 成樹¹⁾²⁾
1)(一社)愛知県病院薬剤師会 専門薬剤師教育委員会 感染制御部会、2)(一社)愛知県病院薬剤師会

がん

G 会場 (講義室202) 10:30～11:30

座長：川合 甲祐 (KKR 東海病院 薬剤科)
山口 智江 (中部労災病院 薬剤部)

- G-6** ペメトレキセドの後発品変更の影響について 第2報
○近藤 章吾、曾根 章貴、大塚 祐紀子、高澤 圭輔、安田 翔、生駒 辰夫、松由 幸司、
宮部 芳之
地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院
- G-7** 体表貼付型自動投与デバイス製剤ジールスタ[®]皮下注ボディーポッドの運用事例と
患者満足度についての調査
○竹本 将士¹⁾、小松 弘和²⁾⁴⁾、木下 史緒理²⁾⁴⁾、原口 陽子³⁾、足立 珠美³⁾、朝岡 みなみ¹⁾²⁾⁵⁾、
堀田 祐志¹⁾⁵⁾、日比 陽子¹⁾⁵⁾
1) 名古屋市立大学病院 薬剤部、2) 名古屋市立大学病院 臨床腫瘍部、3) 名古屋市立大学病院 看護部、
4) 名古屋市立大学大学院 医学研究科 血液・腫瘍内科学分野、
5) 名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬学
- G-8** CADD-Legacy[®] ポンプを用いた blinatumomab 在宅投与移行プログラムの検討
○藤井 祥矢¹⁾、大澤 友裕¹⁾、平手 友章²⁾、神田 香織²⁾、館 知也¹⁾³⁾⁴⁾、水井 貴詞¹⁾、
篠田 邦大²⁾、笠原 千嗣³⁾⁵⁾、安田 昌宏¹⁾³⁾
1) 岐阜市民病院 薬剤部、2) 岐阜市民病院 小児科、3) 岐阜薬科大学 健康医療薬学研究室、
4) 名古屋市立大学大学院 薬学研究科 臨床薬学分野、5) 岐阜市民病院 血液内科
- G-9** 血液透析導入を見越した用量設定により Nivolumab+FOLFOX 療法が奏功した一例
○小泉 慶子¹⁾、水野 智博¹⁾、梅木 祐介²⁾、松岡 宏²⁾、須田 康一²⁾、山田 成樹¹⁾
1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座、2) 藤田医科大学 医学部 総合消化器外科学講座
- G-10** がん患者に対するポリファーマシー対策にて原因不明の有害事象を改善した一例
○廣瀬 日向¹⁾²⁾、安藤 洋介¹⁾²⁾、鈴木 美華²⁾、石井 春奈²⁾、神原 彩那²⁾、家田 浩美²⁾、
山田 成樹¹⁾
1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学、2) 藤田医科大学ばんだね病院

G-11 子宮体癌において低容量のレンバチニブ + ペムブロリズマブ併用療法を
late line で使用し奏功した一例

○草川 里奈¹⁾²⁾、安藤 洋介¹⁾²⁾、鈴木 美華²⁾、石井 春奈²⁾、神原 彩那²⁾、家田 浩美²⁾、
山田 成樹¹⁾

1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学、2) 藤田医科大学ばんだね病院

がん

G 会場 (講義室 202) 13:00 ~ 14:00

座長：井上 裕貴 (国立病院機構 豊橋医療センター 薬剤部)
岩田 智樹 (一宮市立市民病院 薬剤局)

G-12 非小細胞肺癌患者におけるアナモレリン塩酸塩と化学療法治療ラインを関連付けた検討

○小原 里奈、高岡 龍蔵、杉本 智哉、山室 栄一、遠山 幸男、久田 達也
トヨタ記念病院

G-13 固定用量免疫チェックポイント阻害剤治療を受けた肺癌患者における体格と
免疫関連有害事象発現率に関する研究

○飯沼 真理、川原田 祐貴、北村 葵、溝口 博之、山田 清文
名古屋大学医学部附属病院 薬剤部

G-14 血液透析中の DLBCL 患者に対し適切な投与量調節にて R-CHOP 療法を
安全に実施し得た 1 症例

○小木曾 杏奈¹⁾²⁾、水野 智博¹⁾²⁾、伊藤 佳織³⁾、後藤 尚絵⁴⁾、岡本 晃直⁴⁾、冨田 章裕⁴⁾、
山田 成樹¹⁾²⁾
1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座、2) 藤田医科大学病院 薬剤部、
3) 名城大学 薬学部 薬学科 病態解析学Ⅲ、4) 藤田医科大学 医学部 血液内科学

G-15 レナリドミド、ポマリドミド使用患者に対するチェックシートによる業務標準化の有用性

○水田 志緒里¹⁾、長谷川 裕矢¹⁾、花村 菜月¹⁾、松崎 南美¹⁾、梅原 由佳理¹⁾、横山 英典¹⁾、
黒宮 浩嗣²⁾、松本 利恵¹⁾
1) 松波総合病院 薬剤部、2) 同 データセンター

G-16 がん化学療法を受ける悪性リンパ腫患者の不安が副作用および生活の質に及ぼす影響

○勅使河原 裕大¹⁾、舘 知也¹⁾²⁾³⁾⁴⁾、田中 和秀²⁾⁴⁾、穴戸 正昂¹⁾、野口 義紘¹⁾、水井 貴詞¹⁾⁴⁾、
寺町 ひとみ¹⁾、安田 昌宏²⁾⁴⁾、吉村 知哲¹⁾、笠原 千嗣²⁾⁵⁾
1) 岐阜薬科大学 薬学部 病院薬学研究室、2) 岐阜薬科大学 薬学部 健康医療薬学研究室、
3) 名古屋市立大学 大学院薬学研究科 臨床薬学分野、4) 岐阜市民病院 薬剤部、5) 岐阜市民病院 血液内科

G-17 リツキシマブ後発品の急速投与における安全性の調査

○今西 航、小川 晃宏、三宅 知宏
伊勢赤十字病院

座長：長嶋 一泰（労働者健康安全機構 旭労災病院 薬剤部）

千嶋 康司（社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 薬剤部）

G-18 指導依頼箋を用いた外来服薬指導（グルカゴン点鼻粉末剤を対象として）

○伊藤 晴也、松本 茂、宮島 紀彦、後藤 俊晃、小崎 耕自、山田 哲也

公立陶生病院 医療技術局 薬剤部

G-19 骨折リエゾンサービスにおける骨粗鬆症治療薬の適正化に向けた取り組み

○八並 ゆかり¹⁾、天野 哲史¹⁾、片山 広美¹⁾、黒田 信行¹⁾、鈴木 裕之¹⁾、大竹 友里恵¹⁾、
山田 芽生¹⁾、鈴木 厚志¹⁾、清水 昭吾²⁾

1) 碧南市民病院 薬剤部、2) 碧南市民病院 整形外科

G-20 摂食嚥下支援チームにおける薬剤師の関わり

— 嚥下精密検査を通したポリファーマシーへの介入 —

○藤井 佑季¹⁾、兼平 有里¹⁾、安場 弘倫¹⁾、多田 瑛²⁾、水谷 早貴²⁾、天埜 皓太²⁾、岩崎 理浩²⁾、
木村 将典²⁾、谷口 裕重²⁾、岡安 伸二¹⁾

1) 朝日大学病院 薬剤部、2) 朝日大学 歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野

**G-21 三重大学医学部附属病院における CAR-T 療法施行時の副作用管理体制の検討と
1 症例における検証**

○須藤 あかり¹⁾、山田 真帆¹⁾、加藤 千佳¹⁾、世古口 典子¹⁾、石橋 美紀¹⁾、川瀬 亮介¹⁾、
向原 里佳¹⁾、伊野 和子²⁾、大石 晃嗣²⁾³⁾、岩本 卓也¹⁾

1) 三重大学医学部附属病院 薬剤部、2) 三重大学医学部附属病院 血液内科、

3) 三重大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部

G-22 ジゴキシン導入時にカリウム補正を行った高齢心不全の1例

○森本 瑠菜、鈴木 翔、長沼 美代子

国際医療福祉大学熱海病院

**G-23 ジスチグミンによるコリン作動性クリーゼが疑われる症例に対して検査提案を行い、
副作用の重篤化を未然回避した一例**

○朝倉 宏紀、長水 正也、佐藤 由美子、森下 修行

名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター

座長：松下 勝彦（新城市民病院 医療技術部）

川澄 紀代（愛知医科大学病院 薬剤部）

G-24 服薬自己管理依頼表運用後の現状調査と課題

○遠藤 秀竜、細野 真吾、見尾谷 昇、大屋 和福、山崎 崇

医療法人徳洲会 大垣徳洲会病院 薬剤部

G-25 新人薬剤師の教育体制とその評価 薬剤管理指導記録の鑑査を中心に

○後藤 清香、関谷 泰明、井上 壽江、平下 智之

地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター

G-26 心房細動(AF)アブレーション周術期の抗凝固薬、中止薬に対する 薬剤師の取り組みと評価

○長谷川 真里¹⁾、牛島 恵美¹⁾、板橋 純奈¹⁾、土屋 杏奈¹⁾、中島 孝²⁾、青山 琢磨²⁾、
平出 耕石¹⁾

1) 中部国際医療センター 薬剤部、2) 中部国際医療センター 循環器内科

G-27 病棟業務での薬薬連携による薬学的介入の実例

○角本 祐紀子

特定医療法人萬生会 熊本第一病院

CKD・薬学教育

H会場(講義室204) 9:30~10:20

座長：今高 多佳子(日赤愛知医療センター 名古屋第二病院 薬剤部)

小島 昌代(一宮市立木曽川市民病院 薬剤局)

H-1 腎機能低下患者におけるビスホスホネート製剤の使用実態調査

○戸邊 隆夫¹⁾、佐々木 茜里²⁾、祖父江 彩加²⁾、水野 智博¹⁾、林 高弘²⁾、鈴木 敦詞³⁾、
山田 成樹¹⁾

1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学、2) 金城学院大学 薬学部、
3) 藤田医科大学 医学部 代謝・内分泌・糖尿病内科

H-2 ダパグリフロジン増量による initial dip と腎機能への短期的な影響

○中嶋 琢人¹⁾、伊藤 真史²⁾、近藤 洋一¹⁾、滝本 典夫¹⁾

1) 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院、2) 高浜豊田病院

H-3 抗菌化学療法認定薬剤師による院内薬剤部員への感染症診療支援に係る教育効果

○安川 乃里子、塩田 有史、加藤 隆寛、加藤 美樹、川澄 紀代、大西 正文

愛知医科大学病院

H-4 当院での薬学部実習生における AMR 意識調査

○山里 久子、笠井 翼、木全 司

日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第二病院

H-5 病院実務実習における化学療法調製手技講義と演習の導入

○伊藤 佳織¹⁾²⁾、津川 透³⁾、戸邊 隆夫²⁾、松田 日出三³⁾、築山 郁人¹⁾、野田 幸裕¹⁾、
亀井 浩行¹⁾、早川 伸樹¹⁾、山田 成樹²⁾³⁾

1) 名城大学 薬学部、2) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座、3) 藤田医科大学病院 薬剤部

精神／妊婦・授乳婦

H会場(講義室204) 10:30~11:30

座長：宮浦 淳一(医療法人姿生会 八事病院 薬剤課)

大野 愛(JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 薬剤部)

H-6 クロザピン施用中の好中球減少症に対するリチウムの予防効果

○曳地 勇人¹⁾、加藤 寛子²⁾、高野 迪花²⁾、丹羽 今日子²⁾、渡辺 大地²⁾、小林 亮¹⁾²⁾、
鈴木 昭夫¹⁾²⁾

1) 岐阜薬科大学、2) 岐阜大学医学部附属病院

- H-7** 実臨床データを用いたレンボレキサントの有効性・安全性の評価：
スボレキサント使用成績調査との比較
○羽田野 光汰、波多野 正和、山田 成樹
藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学
- H-8** クロザピンの血清中濃度測定に関する臨床的意義について
○中村 友喜¹⁾、藤澤 豊²⁾、塩野 光希¹⁾、上田 加奈子¹⁾、岡村 佳奈¹⁾、三輪 高市²⁾
1) 三重県立こころの医療センター 診療技術部 薬剤室、2) 鈴鹿医療科学大学 薬学部
- H-9** 妊婦・授乳婦の薬剤使用状況の現状と薬剤師業務の展望
○菊 千香子、赤野 久美子、飛永 あゆみ、青山 佳代、堤田 由布、富田 敦和、今西 忠宏
愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院
- H-10** 出産後ラモトリギンの血中濃度が急激に上昇し振戦が出現した1例
○丸山 順也¹⁾、長谷部 千夏¹⁾、森 悠²⁾、宮部 芳之¹⁾
1) 地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院 薬剤部、2) 地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院 神経内科
- H-11** 産後鉄欠乏性貧血症例に対するカルボキシマルトース第二鉄注射液の使用実態調査
○仲村 聡美¹⁾、光永 義治¹⁾、渡部 多真紀¹⁾²⁾、久保田 篤司¹⁾²⁾、長阪 一憲³⁾、安野 伸浩¹⁾²⁾
1) 帝京大学医学部附属病院 薬剤部、2) 帝京大学 薬学部、3) 帝京大学医学部附属病院 産婦人科

その他

H会場(講義室204) 13:00～14:00

座長：竹内 正幸(愛知医科大学病院 薬剤部)

新井 孝文(公益社団法人日本海員救済会 名古屋掖済会病院 薬剤部)

- H-12** 入退院支援部門の薬剤師業務による整形外科病棟業務の効率化および
安全性向上への影響の評価
○藤井 友奈美¹⁾、山本 泰士¹⁾、藤井 宏典¹⁾、飯原 大稔¹⁾、加藤 寛子¹⁾、西田 承平¹⁾、
星野 良¹⁾、丹羽 隆¹⁾、小林 亮²⁾、鈴木 昭夫¹⁾
1) 岐阜大学医学部附属病院、2) 岐阜薬科大学 薬学部 先端医療薬学研究室
- H-13** 骨折リエゾンサービスチームにおける薬剤師の取り組み
○桑原 千明、染原 渉、花林 雅裕、桜田 宏明
一宮市立市民病院
- H-14** トヨタ記念病院における骨粗鬆症リエゾンサービスの活動実績と今後の課題
○堀田 菜摘、奥苑 朱加、高木 由奈、遠山 幸男、久田 達也
トヨタ記念病院
- H-15** JADERを用いた薬剤性好酸球性肺炎のリスク因子の検討
○内田 朱音、塩田 有史、川澄 紀代、大西 正文
愛知医科大学病院 薬剤部
- H-16** JADERを用いたアセトアミノフェンの薬剤性過敏症症候群の発現シグナルと
COVID-19感染やワクチン接種との関連性調査
○村瀬 瑞季、古関 竹直、水野 智博、山田 成樹
藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学

H-17 SGLT2阻害薬を用いた National DateBase オープンデータの利活用に関する研究

○三宅 健文¹⁾、門脇 大介²⁾

1) 社会福祉法人 京都社会事業財団 西陣病院、2) 崇城大学 薬学部

その他

H 会場 (講義室 204) 14:10～15:10

座長: 三村 佳久 (名古屋市立大学病院 薬剤部)

森 健司 (医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 薬剤部)

H-18 急性呼吸窮迫症候群患者における凝固線溶系異常の病態区分に応じたシベレスタットの有用性評価と死亡リスク因子の探索

○加藤 貴大¹⁾、水野 智博¹⁾、古関 竹直¹⁾、高橋 和男²⁾、山田 成樹¹⁾、今泉 和良³⁾、坪井 直毅⁴⁾、橋本 直純³⁾

1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座、2) 藤田医科大学 医学部 解剖学Ⅱ、

3) 藤田医科大学 医学部 呼吸器内科、4) 藤田医科大学 医学部 腎臓内科

H-19 COVID-19罹患によるクロザピンの休薬・代替薬提案に薬剤師が介入した治療抵抗性統合失調症の1例

○斉藤 慶師¹⁾、岡本 明大¹⁾、加藤 秀雄¹⁾、久保 美穂子¹⁾、大久保 瑠璃²⁾、元村 英史²⁾、岩本 卓也¹⁾

1) 国立大学法人 三重大学医学部附属病院 薬剤部、2) 国立大学法人 三重大学医学部附属病院 精神科

H-20 新型コロナウイルス感染症罹患後症状を有する患者に対する処方薬剤と症状改善について

○石川 希依¹⁾、見崎 知子¹⁾、塚谷 忍¹⁾、中村 勝¹⁾、関 泰輔¹⁾²⁾、馬場 研二³⁾、大西 正文¹⁾⁴⁾

1) 愛知医科大学メディカルセンター 医療技術部薬剤室、2) 愛知医科大学メディカルセンター 整形外科、

3) 愛知医科大学メディカルセンター 総合診療科、4) 愛知医科大学 病院薬剤部

H-21 自己注射剤の導入指導において患者理解度に影響を及ぼす因子の検討

○中村 実樹、加藤 隆寛、竹内 正幸、島田 博之、三浦 陽子、山本 絵理子、横井 紀子、伊藤 榛野、大西 正文

愛知医科大学病院

H-22 薬剤部門における災害時に対する行動変容を促す方法の検討

○岡田 千賀子¹⁾、柏原 道志¹⁾、山尾 真貴子¹⁾、青木 勇樹¹⁾、梶原 千里²⁾、矢部 勝茂¹⁾

1) 聖隷福祉事業団 聖隷浜松病院、2) 静岡大学 情報学部 行動情報学科

H-23 岐阜市民病院の倫理審査体制再編における薬剤師の関わり

○勝野 隼人¹⁾²⁾、田中 和秀¹⁾²⁾、宮川 伊代¹⁾²⁾、青山 智¹⁾²⁾、安田 昌宏¹⁾、水井 貴詞¹⁾

1) 岐阜市民病院 薬剤部、2) 岐阜市民病院 治験・臨床研究管理センター

その他

H 会場 (講義室 204) 15:20～16:00

座長: 丸山 昌広 (明陽会 成田記念病院 薬局)

岩田 聡 (社会医療法人宏潤会 大同病院 薬剤部)

H-24 一包化錠剤仕分け装置 TABSORT における仕分け性能・仕分け可能医薬品についての検証

○椎名 琴女、岩本 一徳、木元 慎一郎、加藤 寛史

富士市立中央病院

H-25 羽島市民病院における一般名処方加算の算定割合増加に向けた取り組み

○秋月 崇行、津田 英里奈、伊藤 真也、浅井 和浩
羽島市民病院 薬剤部

H-26 当院における副作用報告への取り組みについて

○久松 大介、星野 僚介、松本 友里、松本 智史、木村 繁和、林 貴子
岐阜赤十字病院 薬剤部

H-27 半田市立半田病院におけるエボロクマブの使用実態調査

○渡辺 彩里華、吉川 直利、河合 健、横田 学
半田市立半田病院

タスク・シフト／シェア

Ⅰ会場（講義室301）9:30～10:10

座長：今西 忠宏（JA 愛知厚生連 江南厚生病院 薬剤部）
出口 裕子（小牧市民病院 薬局）

I-1 外来通院中の進行期パーキンソン病患者への薬剤師の関わりと今後の展望

○山本 恭平¹⁾、長崎 瑞佳¹⁾、寺村 由枝¹⁾、奥 明美¹⁾、澤田 和久¹⁾、大野 愛²⁾、杉浦 洋二¹⁾
1) JA 愛知厚生連 安城更生病院 薬剤部、2) JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 薬剤部

I-2 タスクシフティングに向けた病棟薬剤業務における検査提案内容の分析

○川村 真実子、山中 規明、岩田 智樹、浅野 寿規、川瀬 由莉、亀重 貴弘、大島 有美子、
桜田 宏明
一宮市立市民病院

I-3 当院におけるタスク・シフト／シェアの現状分析と評価

～テリパラチド皮下注射オートインジェクター製剤の薬剤指導業務に関して～

○宮崎 寛隆¹⁾、相松 伸哉¹⁾、野田 晋司¹⁾、瀧川 慎也²⁾、松田 浩明¹⁾
1) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター 薬剤部、
2) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター 整形外科

I-4 入退院支援センターにおける薬剤師の取り組み

○高村 真子、出口 沙奈、和田 祐一、西井 恵里那、川井 亜由美、出口 舞子、城 貴子、
鈴木 美世利、谷口 賢二
JA 三重厚生連 松阪中央総合病院

周術期

Ⅰ会場（講義室301）10:20～11:30

座長：坂井 克也（一宮市立市民病院 薬剤局）
天野 杏南（日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第二病院 薬剤部）

I-5 電子カルテの文書システムを利用した術前持参薬プロトコルの運用について

○葉山 菜月、西川 さや香、藏地 章仁、森 吉寛、山崎 孝佳、山本 孝枝
豊川市民病院

I-6 入退院支援部門における薬剤師による手術・処置前の休薬確認とその有用性の評価

○中矢 姫菜子¹⁾、加藤 寛子¹⁾、山本 泰士¹⁾、山田 未知¹⁾、高野 迪花¹⁾、山田 翔也¹⁾、
飯原 大稔¹⁾、小林 亮¹⁾²⁾、丹羽 隆¹⁾、鈴木 昭夫¹⁾²⁾

1) 岐阜大学医学部附属病院、2) 岐阜薬科大学 先端医療薬学研究室

I-7 当院における入院前薬歴問診業務の現状

○高橋 沙由理¹⁾、北浦 円¹⁾、河野 亜希子¹⁾、岩下 亜希子²⁾、齋藤 加織¹⁾、益田 藍¹⁾、
石黒 茜¹⁾、南 智¹⁾、櫻井 和子¹⁾

1) 地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院、
2) 地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院

I-8 せん妄に対するアロマセラピーの有用性

— 周術期の高齢者における安心・安全な医療の提供を目指して —

○岡田 千聖、岩倉 英里子、橋本 美智子、阿波 勇樹、小澤 一夫、長谷川 貴栄、渡邊 健斗、
喜多 晃司、海野 宏至、佐藤 昌良

伊賀市立上野総合市民病院

I-9 周術期薬剤管理加算算定前後の病棟薬剤師による処方提案・変更件数の変化

○池田 詩央、糸 哲雄、森本 重輝、宮口 貴守、田口 諒、篠 道弘

静岡県立静岡がんセンター 薬剤部

I-10 当院における周術期薬剤管理の取り組み

○重田 和也、高野 智仁、河合 祐輔、松永 遥香、松本 利恵

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 薬剤部

I-11 術後疼痛管理チームの介入状況から見える今後の展望

○内野 達宏¹⁾、今津 康宏²⁾、稲垣 雄一¹⁾、田畑 庸平³⁾、廣瀬 公美³⁾、小澤 章子²⁾、
竹内 正紀¹⁾

1) 国立病院機構 独立行政法人 静岡医療センター 薬剤部、2) 静岡医療センター 麻酔科、
3) 静岡医療センター 看護部

がん・地域連携

I 会場（講義室 301） 13:00～14:00

座長：吉川 直利（半田市立半田病院 薬剤局）

服部 聡（知多薬剤師会／青山つつじ薬局）

I-12 外来がん薬物療法施行患者に関するトレーシングレポートの返信業務の開始とその効果について

○梅原 由佳理、横山 英典、道添 菜月、松崎 南美、水田 志緒里、桑原 雅史、曾我 杏莉沙、
野川 斐奈、真野 あすか、松本 利恵

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

I-13 松阪地区薬剤師会における心不全薬薬連携の取り組みについて

○小西 喜昭¹⁾、高井 靖²⁾、荒井 梨菜¹⁾、三井 聖子³⁾、大市 陽子⁴⁾、辻 由紀子⁵⁾、中村 文彦⁶⁾、
谷口 賢二¹⁾

1) JA 三重厚生連 松阪中央総合病院 薬剤部、2) 三重ハートセンター薬局、3) 済生会 松阪総合病院 薬剤部、
4) 松阪市民病院 薬剤部、5) つじさい薬局 大淀寺前店、6) 金時堂薬局

- I-14 COVID-19感染症における疑義照会業務への影響の検討**
○新谷 美帆、榊原 洋一、永松 秀紹、深谷 恵里、伊藤 実優
半田市立半田病院
- I-15 高齢患者に対する総合的評価によってポリファーマシーを解消し自宅退院に繋いだ一症例**
○相宮 幸典¹⁾²⁾、水野 智博²⁾³⁾、稲垣 里紗³⁾、荒木 遥菜²⁾³⁾、荒川 悠樹³⁾、波多野 正和²⁾³⁾、
榊原 幹夫¹⁾、杉浦 伸哉¹⁾、山田 成樹²⁾³⁾
1)スギ薬局、2)藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学、3)藤田医科大学病院
- I-16 当院における入退院時の薬剤情報連携に関する取り組み**
○萩原 佑哉¹⁾、山崎 直子¹⁾、豊田 真歩¹⁾、青島 章弘¹⁾、大石 真弓¹⁾、渡邊 学²⁾
1)社会医療法人駿甲会 コミュニティーホスピタル甲賀病院 薬剤科、2)同 医療技術部
- I-17 薬剤管理サマリーの活用方法の検討**
○矢野 麻希、渡辺 俊輔、竹下 秀司
共立蒲原総合病院 薬局

医薬品管理・リスクマネジメント・調剤

Ⅰ会場(講義室301) 14:10～15:10

座長：横山 稔厚(日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第一病院 薬剤部)

田宮 真一(日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第二病院 薬剤部)

- I-18 当院における毒劇物管理体制確立の取り組みについて**
○勝野 晋哉¹⁾、小崎 耕自¹⁾、深津 昌弘¹⁾、寺島 純一¹⁾、川瀬 義久²⁾、植村 佳絵²⁾、
横山 聖二²⁾、福井 敦士²⁾、山田 哲也¹⁾
1)公立陶生病院 薬剤部、2)公立陶生病院 医療品質管理部
- I-19 災害備蓄薬品の適正かつ効率的な管理を目指したローリングストック化の取り組み**
○松浦 光莉¹⁾、藤原 信二¹⁾、和知野 千春¹⁾²⁾、増田 賢一¹⁾、丹村 貴之¹⁾、西出 景子¹⁾²⁾、
近藤 勝弘¹⁾²⁾
1)名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 薬剤部
2)名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬剤学分野
- I-20 愛知医科大学病院における経口セマグルチドと経口ビスホスホネート系薬剤を
適正に併用するための取り組み**
○大竹 優貴子、宇野 英理子、野々垣 知行、川澄 紀代、大西 正文
愛知医科大学病院
- I-21 B型肝炎ウイルス再活性化予防のための検査実施状況に関する調査**
○山中 俊哉、渡部 実咲、古谷 一平、田中 佳子、井上 壽江、平下 智之
岐阜県総合医療センター
- I-22 調剤過誤防止に対する計数調剤管理システム F-WAVE の有用性の評価**
○高須 清香、田代 将貴、功刀 さおり、片桐 崇志、三村 佐紀、伊藤 清香、太田 敦代
磐田市立総合病院

I-23 分割調剤スキルを S ランクにする

- 岩見 浩太郎、村田 優紀、石川 亜希子、浅川 かおり、重黒木 典子、梅村 由香利、柴田 理恵、有木 寛子
医療法人鉄友会 宇野病院

調剤

I会場(講義室301) 15:20～16:10

座長：野崎 達也(半田市立半田病院 薬剤科)

向山 直樹(日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第一病院 薬剤部)

I-24 当院における持参薬管理業務の取り組み 管理表の見直しを繰り返しての効果

- 直井 秀樹、武山 通高、長瀬 優里、中川 智統、洞口 知江、栃原 龍宏、元田 早紀
JA 岐阜厚生連 飛騨医療センター久美愛厚生病院

I-25 院内採用薬の簡易懸濁適否判定におけるインタビューフォーム情報の有用性評価

- 岡本 有紀子、中村 康夫
名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院 薬剤部

I-26 自動錠剤仕分け装置(TABSORT⁺®)導入による効果

- 小島 庸子、安藤 彰治、森内 友代、遠山 幸男、久田 達也
トヨタ自動車(株) トヨタ記念病院 薬剤科

I-27 注射薬混注監査システム AddDis 導入による抗がん薬調製業務への影響について

- 杉山 恵亮、築山 奈央、志賀 有雅、奥平 正美、杉浦 洋二
JA 愛知厚生連 安城更生病院

I-28 愛知医科大学病院外来調剤室における調剤待ち時間延長因子の探索

- 相羽 優樹
愛知医科大学病院 薬剤部

化学系

J会場(講義室302) 9:30～10:20

座長：吉村 文彦(静岡県立大学 薬学部 医薬品製造化学部門)

山田 強(岐阜薬科大学 薬学部 薬品化学研究室)

J-1 P-CABs の de novo 設計とその合成

- 犬飼 実希¹⁾、阿部 一啓¹⁾²⁾³⁾、尾迫 麻未¹⁾、松雪 洋恵¹⁾、北山 真之介¹⁾、金井 千里⁴⁾、永井 千晶¹⁾、榎窪 成祥¹⁾、吉森 篤史⁵⁾、横島 聡¹⁾
1)名古屋大学大学院 創薬科学研究科、2)名古屋大学 細胞生理学研究センター、
3)東海国立大学機構 One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点、
4)株式会社 インテージヘルスケア、5)株式会社 理論創薬研究所

J-2 ピリジニウムカチオンを用いた可視光応答性ケージド基の光応答性の検討

- 館 実優¹⁾、家田 直弥²⁾、川口 充康¹⁾、中川 秀彦¹⁾
1)名古屋市立大学大学院 薬学研究科 薬化学分野、2)北海道大学大学院 薬学研究院 生体分析化学研究室

J-3 グロボステレチン A の合成研究

○青木 謙汰、吉村 文彦、滝田 良

静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 薬科学専攻

J-4 チオウレアの光励起作用を利用した脱クロロ化反応

○原口 卓巳、小林 史尚、江上 寛通、濱島 義隆

静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 医薬品創製化学分野

J-5 2- エキソメチレンインドリン -3- オンの合成、利用法開拓、反応メカニズム解明研究

○山田 強、藤井 明子、小林 貴範、古堅 力、兵藤 友紀、井川 貴詞、佐治木 弘尚

岐阜薬科大学 薬品化学研究室

医療系・生物系

J会場(講義室302) 10:30～11:30

座長：福光 秀文(岐阜薬科大学 生体機能解析学大講座 分子生物学研究室)

刀坂 泰史(静岡県立大学 薬学部 分子病態学分野)

J-6 骨盤内神経損傷による溢流性尿失禁ラットの尿道収縮弛緩機能の変化についての検討

○高森 雄貴¹⁾、堀田 祐志¹⁾²⁾³⁾、川田 龍哉²⁾、片岡 智哉⁴⁾、日比 陽子³⁾、太田 裕也⁵⁾、
濱川 隆⁶⁾、窪田 泰江⁷⁾、安井 孝周⁸⁾、木村 和哲³⁾

1)名古屋市立大学 薬学部 病院薬剤学、2)名古屋市立大学大学院 薬学研究科 病院薬剤学、

3)名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬剤学、4)千葉科学大学 薬学部 薬理学、

5)安城厚生病院 泌尿器科、6)名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 泌尿器科、

7)名古屋市立大学大学院 看護学研究科 先端医療看護学、

8)名古屋市立大学大学院 医学研究科 腎・泌尿器科学

J-7 漢方処方論の科学的解析(第43報)

グリチルレチン酸に対するモノクローナル抗体の作製と血中濃度測定を目指した
ELISA法の樹立

○日坂 真輔、村瀬 祥子、岸 駿斗、矢野 真央、大野 有希奈、武田 和子、水谷 朋加、
大田 ひかり、能勢 充彦

名城大学 薬学部 生薬学研究室

J-8 細胞からエキソサイトーシスされたポリマーナノ粒子の標的分子吸着能の評価

○佐藤 慶次朗

静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 薬科学専攻 医薬生命化学講座

J-9 TRPA1の亜鉛透過性に関する検討

○松原 匡希、村木 克彦

愛知学院大学 薬学研究科 薬効解析学講座

J-10 脳の層構造形成に必須であるDab1の新規リン酸化メカニズム

○原 光輝、服部 光治、河野 孝夫

名古屋市立大学大学院 薬学研究科 病態生化学分野

J-11 小脳形成におけるATP8A2とリーリンシグナルの関係の解明

○五反田 逸孝¹⁾、川瀬 宗之²⁾、梅村 悠太²⁾、河野 孝夫¹⁾²⁾、大石 久史³⁾、服部 光治¹⁾²⁾

1)名古屋市立大学 薬学部 病態生化学分野、2)名古屋市立大学大学院 薬学研究科 病態生化学分野、

3)名古屋市立大学大学院 医学研究科 病態モデル医学分野

座長：轟木 堅一郎(静岡県立大学 薬学部)

奥蘭 透(名古屋市立大学大学院 薬学研究科)

J-12 アゾラト架橋白金(Ⅱ)二核錯体を基盤とする創薬研究と新たな反応機構

○山田 拓磨、米田 誠治

鈴鹿医療科学大学大学院 薬学研究科

J-13 DNA 損傷チェックポイントを制御する9-1-1の分子内相互作用と活性化因子 RHINO との相互作用解析○松林 志歩¹⁾、原 幸大¹⁾²⁾、永田 季穂²⁾、達川 絢介³⁾、飯田 奈央²⁾、測上 壮太郎¹⁾²⁾、
菱木 麻美¹⁾²⁾、大橋 英治³⁾⁴⁾、橋本 博¹⁾²⁾

1) 静岡県大薬、2) 静岡県大薬、3) 九大院理、4) 長浜バイオ大

J-14 染色体構築に必須のコヒーシン制御サブユニットの調製と結晶化○高橋 柚子¹⁾、原 幸大¹⁾²⁾、矢島 聡¹⁾、菱木 麻美¹⁾²⁾、測上 壮太郎¹⁾²⁾、橋本 博¹⁾²⁾

1) 静岡県大薬、2) 静岡県大薬

J-15 テンプレートスイッチを促進する SHPRH のペプチドと PCNA の結晶学的研究○長谷川 椋司¹⁾、菱木 麻美¹⁾²⁾、原 幸大¹⁾²⁾、測上 壮太郎¹⁾²⁾、橋本 博¹⁾²⁾

1) 静岡県大薬、2) 静岡県大薬

J-16 誘導体化法を用いるカルニチン鏡像異性体のキラル LC/MS/MS 分析法の開発

○中山 雄太郎、古庄 仰、杉山 栄二、轟木 堅一郎

静岡県立大学 薬学部 生体機能分子分析学分野

J-17 タンパク質の細胞内送達を可能とする多官能性リポソームの開発○渡邊 翠¹⁾、小出 裕之¹⁾、平田 真也¹⁾、落合 広樹¹⁾、出羽 毅久²⁾、奥 直人¹⁾³⁾、浅井 知浩¹⁾

1) 静岡県立大学 薬学部 医薬生命化学講座、2) 名古屋工業大学院 工学部、3) 帝京大学 薬学部

座長：遠山 幸男(トヨタ記念病院 薬剤科)

後藤 健志(社会医療法人杏嶺会 一宮西病院 薬剤科)

J-18 安城更生病院緩和ケア病棟における薬剤師配置と薬学的介入について○渡辺 裕之¹⁾²⁾、藤井 友和¹⁾、植松 夏子¹⁾、伊藤 匡伸¹⁾、栗田 浩文¹⁾、野本 歩未¹⁾、沖 哲³⁾、
足立 康則³⁾、鍋島 俊隆²⁾、杉浦 洋二¹⁾

1) JA 愛知厚生連 安城更生病院 薬剤部、2) 藤田医科大学大学院 保健学研究科、

3) JA 愛知厚生連 安城更生病院 緩和ケア内科

J-19 酪酸菌製剤による全身性の薬疹が疑われた1症例○二村 昭彦¹⁾²⁾、正見 勇太²⁾、角谷 莉音³⁾、最上 恵子¹⁾、野原 知美¹⁾、今井 一輝¹⁾²⁾、
荒木 見和¹⁾、伊與田 裕理¹⁾、渡辺 琴音¹⁾、臼井 正信²⁾

1) 藤田医科大学七栗記念病院 医療技術部 薬剤課、2) 藤田医科大学 医学部 外科・緩和医療学講座、

3) 神戸薬科大学 薬学部

J-20 緩和病棟におけるナルデメジンの投与継続に関わる因子の解析

○蟹江 孝樹¹⁾、水野 智博¹⁾、古関 竹直¹⁾、花村 彩²⁾、澤野 弘子²⁾、富田 雅子²⁾、林 高弘²⁾、松岡 宏³⁾、臼井 正信⁴⁾、山田 成樹¹⁾

1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学、2) 金城学院大学 薬学部、
3) 藤田医科大学 医学部 総合消化器外科学、4) 藤田医科大学 医学部 外科・緩和医療学

J-21 ヒドロモルフォン製剤導入による麻薬の使用量・採用状況に対する影響の調査

○伊藤 昌美¹⁾⁸⁾、遠山 幸男²⁾⁸⁾、江崎 秀樹³⁾⁸⁾、岩津 慎次郎⁴⁾⁸⁾、築山 郁人⁵⁾⁸⁾、後藤 健志⁶⁾⁸⁾、鈴木 厚志¹⁾、宮崎 雅之⁷⁾⁸⁾

1) 碧南市民病院、2) トヨタ記念病院、3) 刈谷豊田総合病院、4) 公立陶生病院、5) 名城大学 薬学部、
6) 一宮西病院、7) 名古屋大学医学部附属病院、8) 愛知県病院薬剤師会 がん部会

J-22 入院患者の麻薬自己管理に関する看護師の意識調査

○浅沼 美和、根田 光朗、鈴木 弘文
盛岡赤十字病院

J-23 医療用麻薬指導記録テンプレート導入による緩和ケア科外来の薬物治療支援の取り組み

○荒木 見和、最上 恵子、野原 知美、今井 一輝、岩佐 雅子、脇本 可奈子、伊與田 裕理、渡邊 琴音、二村 昭彦
藤田医科大学 七栗記念病院 薬剤課

医療系

K会場（講義室303）9:30～10:20

座長：安東 嗣修（金城学院大学 薬学部）
小林 亮（岐阜薬科大学）

K-1 光応答性一酸化窒素ドナーの難治性勃起不全への効果について ～糖尿病性勃起不全モデルを用いた検討～

○堀田 祐志¹⁾²⁾、大山 享也³⁾、家田 直弥⁴⁾、片岡 智哉⁵⁾、日比 陽子¹⁾²⁾、中川 秀彦⁶⁾、木村 和哲¹⁾²⁾

1) 名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬剤学、2) 名古屋市立大学病院 薬剤部、
3) 名古屋市立大学 薬学部 病院薬剤学、4) 北海道大学大学院 薬学研究院 生体分析化学、
5) 千葉科学大学大学院 薬学研究科 薬理学、6) 名古屋市立大学大学院 薬学研究科 薬化学

K-2 ナルデメジン投与下でのオピオイド鎮痛効果関連アウトカムに対する脳転移の影響

○花本 彩¹⁾、古関 竹直²⁾、宇都宮 彩花²⁾、石原 拓磨³⁾、近藤 征史⁴⁾、喜島 祐子⁵⁾、松岡 宏⁶⁾、水野 智博²⁾、山田 成樹²⁾、林 高弘¹⁾²⁾

1) 金城学院大学 薬学部、2) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学、
3) 岐阜大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究推進センター、4) 藤田医科大学 医学部 呼吸器内科学、
5) 藤田医科大学 医学部 乳腺外科、6) 藤田医科大学 医学部 総合消化器外科

K-3 膀胱がん患者に対するゲムシタビン・シスプラチン併用療法による 重篤な好中球減少発生の予測モデル

○松本 憲昭¹⁾²⁾、水野 智博¹⁾、安藤 洋介¹⁾、中西 正範³⁾、中井 剛¹⁾、亀谷 由隆⁴⁾、中村 渉⁵⁾、高原 健⁵⁾、白木 良一⁵⁾、山田 成樹¹⁾

1) 藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学講座、2) 株式会社 スギ薬局、3) 藤田医科大学 医学部 腎臓内科学、
4) 名城大学 情報工学部、5) 藤田医科大学 医学部 腎泌尿器外科学

- K-4** 新型コロナウイルス感染症罹患状況の地域差と緑茶関連情報に関する生態学的研究
○田中 雄也¹⁾、富永 健一郎¹⁾、生川 誉紹¹⁾、蒔田 篤則¹⁾、中村 洸友¹⁾、古島 大資¹⁾、
山田 浩¹⁾²⁾
1) 静岡県立大学 薬学部 医薬品情報解析学分野、2) 静岡県立大学 薬学研究院 茶健康科学講座

- K-5** 緑茶うがいによる急性上気道炎予防：介入試験を対象としたメタアナリシス
○生川 誉紹¹⁾、富永 健一郎¹⁾、田中 雄也¹⁾、蒔田 篤則¹⁾、中村 洸友¹⁾、古島 大資¹⁾、
山田 浩¹⁾²⁾
1) 静岡県立大学 薬学部 医薬品情報解析学分野、2) 静岡県立大学 薬学研究院 茶健康科学講座

医療系

K会場（講義室303） 10:30～11:30

座長：日比 陽子（名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬理学分野）
内田 信也（静岡県立大学 薬学部 実践薬学分野）

- K-6** 尿中 Vanin-1 のシスプラチン（CDDP）誘発性急性腎障害に対する有用性評価
—食道がんの5-FU/CDDP 併用療法をモデルとして—
○岩野 柚奈¹⁾、内野 智信¹⁾²⁾、宮崎 靖則¹⁾²⁾、中條 倫成²⁾³⁾、大澤 美紗³⁾、永井 恵里奈⁴⁾、
瀧 雄介⁴⁾、佐藤 真輔⁴⁾、渡邊 昌也⁴⁾、賀川 義之¹⁾²⁾
1) 静岡県立大学 薬学部、2) 静岡県立大学大学院 薬学研究院、3) 静岡県立総合病院 薬剤部、
4) 静岡県立総合病院 消化器外科

- K-7** カペシタビン誘発性手足症候群と角層セラミドレベルの関連性の検討
○岡田 真由子¹⁾、内野 智信¹⁾²⁾、宮崎 靖則¹⁾²⁾、鈴木 郁海¹⁾、湯本 龍治¹⁾、中條 倫成²⁾³⁾、
大澤 美紗³⁾、河合 貞幸⁴⁾、多久 佳成⁴⁾、賀川 義之¹⁾²⁾
1) 静岡県立大学 薬学部、2) 静岡県立大学大学院 薬学研究院、3) 静岡県立総合病院 薬剤部、
4) 静岡県立総合病院 腫瘍内科

- K-8** オシメルチニブとその活性代謝物の高感度血漿中濃度測定法の開発と臨床適用
○林 寧月¹⁾、内野 智信¹⁾²⁾、中條 倫成²⁾³⁾、大澤 隆志¹⁾²⁾、朝田 和博⁴⁾、谷澤 康玄¹⁾²⁾、
賀川 義之¹⁾²⁾
1) 静岡県立大学 薬学部、2) 静岡県立大学大学院 薬学研究院、3) 静岡県立総合病院 薬剤部、
4) 静岡県立総合病院 呼吸器内科

- K-9** 喘息患者の重症度およびステロイド反応性に対する IL7R の関与
○小笠原 由佳¹⁾、平井 啓太¹⁾²⁾³⁾、上原 星輝子¹⁾、白井 敏博⁴⁾、赤松 泰介⁴⁾、伊藤 邦彦¹⁾
1) 静岡県立大学 薬学部 臨床薬効解析学分野、2) 信州大学大学院 医学系研究科 臨床薬理学分野、
3) 信州大学医学部附属病院 薬剤部、4) 静岡県立総合病院 呼吸器内科

- K-10** 亜鉛による高齢者の筋力維持と腸内細菌叢の改善効果
○中川 直也、西田 圭吾
鈴鹿医療科学大学大学院 薬学研究院

- K-11** 特発性肺繊維症等に伴う間質性肺炎に対するニンテダニブの有効性及び安全性に関する
検討
○松下 紗季¹⁾、山田 悠人²⁾³⁾、山崎 瑞季²⁾、廣瀬 智恵美²⁾³⁾、飯原 大稔²⁾³⁾、柳瀬 恒明⁴⁾、
遠渡 純輝⁴⁾、山下 修司²⁾、鈴木 昭夫²⁾³⁾、林 秀樹¹⁾²⁾³⁾
1) 岐阜薬科大学 薬学部 在宅チーム医療薬学寄附講座、2) 岐阜薬科大学 薬学部 地域医療実践薬学研究室、
3) 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部、4) 岐阜大学医学部附属病院 呼吸器内科

座長：三輪 高市(鈴鹿医療科学大学 薬学部)

近藤 啓(静岡県立大学 薬学部 創剤科学分野)

K-12 6-メルカプトプリンによる肝障害の感受性時刻差○堀内 綾音¹⁾、宮澤 正幸²⁾、富永 サラ³⁾、前田 徹³⁾、松井 聡敦¹⁾、稲垣 直樹¹⁾、三浦 伸彦²⁾、吉岡 弘毅¹⁾

1) 岐阜医療科学大学 薬学部 薬学科、2) 横浜薬科大薬、3) 金城学院大学

K-13 フェノバルビタール誘発性の細胞増殖抑制に対するクマザサ抽出液の保護作用○吉岡 弘毅¹⁾、堀田 英音¹⁾、月星 陽介¹⁾、緒方 謙一²⁾、松井 敦聡¹⁾、稲垣 直樹¹⁾

1) 岐阜医療科学大学 薬学部 薬理学分野、2) 九州大学 歯学部

K-14 新規電荷反転型脂質を用いた PEG-free mRNA 内封 LNP の開発○沙 沛瀚¹⁾、高下 朋之²⁾、黒崎 寿夫²⁾、浅井 知浩¹⁾

1) 静岡県立大学 薬学部 医薬生命化学分野、2) 日本精化株式会社

K-15 標的毒素に結合してその毒性を中和する生分解性解毒剤の開発

○山田 遥香、小出 裕之、齋藤 海斗、丸橋 春日、浅井 知浩

静岡県立大学 薬学部 医薬生命化学教室

K-16 自己ミセル形成型固体分散体技術による ellagic acid の生物薬剤学的特性向上

○尾内 杏優、山田 幸平、佐藤 秀行、尾上 誠良

静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 薬剤学講座

K-17 多糖類を用いた粘膜付着性ナノ粒子による cyclosporine A の経口吸収性改善○安達 大貴¹⁾、井上 侑樹¹⁾、水元 隆博²⁾、Robert K. Prud'homme³⁾、山田 幸平¹⁾、佐藤 秀行¹⁾、尾上 誠良¹⁾

1) 静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 薬剤学講座、2) ILS 株式会社、3) Princeton 大学

座長：内野 智信(静岡県立大学 薬学部 臨床薬剤学分野)

種田 靖久(岐阜薬科大学 薬物動態学研究室)

K-18 HPLC-UV を用いた血漿中セフメタゾール濃度測定系の確立○中島 こころ¹⁾、左高 侑奈¹⁾²⁾、鶴谷 真緒¹⁾、森川 めぐみ¹⁾、曾田 翠¹⁾、種田 靖久¹⁾、平下 智之²⁾、高橋 義人³⁾、北市 清幸¹⁾

1) 岐阜薬科大学 薬物動態学研究室、2) 岐阜県総合医療センター 薬剤部、3) 岐阜県総合医療センター 泌尿器科

K-19 機械学習による重症皮膚有害反応予測モデルの構築

○黒木 葵、松丸 直樹、塚本 桂

岐阜薬科大学 薬学部 グローバルレギュラトリーサイエンス研究室

- K-20** マイクロ流体デバイス法によるブロックコポリマーナノ粒子の調製と物性及び脳内移行性評価
○吉田 圭輝¹⁾、照喜名 孝之¹⁾、金沢 貴憲²⁾、近藤 啓¹⁾
1) 静岡県立大学 薬学部 創剤科学分野、2) 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 (薬学域) 薬物治療学分野
- K-21** ブロックコポリマー／塩基性ペプチドからなる共集合化ナノ DDS 基盤技術開発への挑戦と Nose-to-Brain への応用
○飯岡 真吾¹⁾、金沢 貴憲¹⁾²⁾、照喜名 孝之¹⁾、近藤 啓¹⁾
1) 静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 創剤工学講座
2) 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 (薬学域) 薬物治療学分野
- K-22** HPMCAS がナノファイバーシートからの非晶質薬物の放出制御と非晶質安定性におよぼす影響
○青木 莊賢、照喜名 孝之、近藤 啓
静岡県立大学 薬学部 創剤科学分野
- K-23** 静脈投与による脂質ナノ粒子の脾臓分布特性に及ぼすリン脂質および粒子径の影響
○芹澤 未来¹⁾、金沢 貴憲¹⁾²⁾、金子 雪子³⁾、佐藤 蓮³⁾、大岡 央³⁾、山口 桃生³⁾、飯岡 真吾¹⁾、尾熊 貴之¹⁾、石川 智久³⁾、近藤 啓¹⁾
1) 静岡県立大学 薬学部 創剤科学分野、2) 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 (薬学域) 薬物治療学分野、3) 静岡県立大学 薬学部 薬理学分野

生物系

M 会場 (講義室 401) 9:30 ~ 10:20

座長：遠藤 智史 (岐阜薬科大学 生命薬学大講座 生化学研究室)
橋本 和宜 (名城大学 薬学部)

- M-1** 脳における脂質異常と炎症亢進の関連機構
○眞木 穂香、和田 万理子、北野 ひかり、森杉 優美、白根 道子
名古屋市立大学大学院 薬学研究科 分子生物薬学分野
- M-2** 神経変性疾患の脳におけるリポファジーの機構
○渡邊 莉絵、山本 敬太郎、白根 道子
名古屋市立大学大学院 薬学研究科 分子生物薬学分野
- M-3** 膜接触部位における PDZD8 の細胞内 Ca^{2+} 調節機構の解析
○奥田 和奏、加藤 洸、白根 道子
名古屋市立大学大学院 薬学研究科 分子生物薬学分野
- M-4** 膜接触部位における脂質輸送を介したリポファジー促進機構
○向江 風、森田 敬子、光成 琴音、白根 道子
名古屋市立大学大学院 薬学研究科 分子生物薬学分野
- M-5** 最大 10 種類のプラスミドを保持できる新規出芽酵母遺伝学実験系の樹立
○松崎 哲郎¹⁾²⁾、Dong Geyao¹⁾、中井 剛³⁾
1) 東海国立大学機構 名古屋大学大学院 医学系研究科 医療薬学研究室、
2) 東海国立大学機構 名古屋大学医学部附属病院 薬剤部、3) 藤田医科大学 薬物治療情報学

座長：白根 道子(名古屋市立大学大学院 薬学研究科 分子生物薬学分野)
梅本 英司(静岡県立大学 薬学部 免疫微生物学)

M-6 Rho 活性化因子 PLEKHG3による RANK シグナルの調節機構の解明

○酒向 政幸¹⁾、上田 浩¹⁾²⁾

1)岐阜大学大学院 自然科学技術研究科、2)岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科

M-7 がん抑制因子 LATS2 キナーゼによる Rho 活性化因子 PLEKHG1の活性制御

○古田 義輝¹⁾、上田 浩¹⁾²⁾

1)岐阜大学大学院 自然科学技術研究科、2)岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科

M-8 筋衛星細胞における機械受容イオンチャネル TRPP2の役割解明

○青柳 雄大、平野 航太郎、鈴木 美希、原 雄二

静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 統合生理学分野

M-9 骨格筋幹細胞に分裂期における膜脂質分子動態の解析

○佐野 淳哉、村上 光、平野 航太郎、原 雄二

静岡県立大学 薬学部 統合生理学分野

M-10 6-OHDA によるドパミン神経細胞死に対する機械受容イオンチャネル群の関与

○高取 時彦、渡邊 慧、鈴木 美希、原 雄二

静岡県立大学 薬学部 統合生理学分野

M-11 骨格筋再生を統御する TRPM7 イオンチャネル依存的なシグナル伝達機構

○中林 千華、平野 航太郎、青柳 雄大、原 雄二

静岡県立大学 薬学部 統合生理学分野

座長：原 雄二(静岡県立大学 薬学部 統合生理学分野)

山村 寿男(名古屋市立大学 薬学部 細胞分子薬効解析学分野)

M-12 ビフィズス菌を用いた新規 DDS における安全性の検討

○榎内 菜々¹⁾、伊藤 佑真¹⁾、伊藤 佐生智¹⁾、小川 勇¹⁾、谷口 俊一郎²⁾、肥田 重明¹⁾

1)名古屋市立大学大学院 薬学研究科 衛生化学分野、2)鹿児島大学 医歯学研究総合科

M-13 好塩基球の IL-4 産生に關与するシグナル伝達分子の解析と受容体の探索

○戸川 果歩¹⁾、向井中 玲菜¹⁾、北野 拓真¹⁾、小川 勇¹⁾、伊藤 佐生智¹⁾、瀧 伸介²⁾、
肥田 重明¹⁾

1)名古屋市立大学大学院 薬学研究科 衛生化学分野、2)信州大学 医学部

M-14 黄色ブドウ球菌毒素による細胞接着制御

○河野 紗英、野田 千咲、小川 勇、肥田 重明、伊藤 佐生智

名古屋市立大学大学院 薬学研究科 衛生化学分野

M-15 クローディン-14による大腸がん細胞の悪性化機構の解明
○水上 優子、橋本 祥太郎、木村 梨穂、伊藤 綾夏、吉野 雄太、遠藤 智史、五十里 彰
岐阜薬科大学 薬学部 生化学研究室

M-16 AR 高発現型トリプルネガティブ乳がんを標的とした抗アンドロゲン化合物の開発
○宮本 悠凜¹⁾、谷生 真敏¹⁾、平井 若菜²⁾、中川 裕介³⁾、坂 智文¹⁾、吉野 雄太¹⁾、
岡田 卓哉²⁾³⁾、豊岡 尚樹²⁾³⁾、遠藤 智史¹⁾、五十里 彰¹⁾
1)岐阜薬科大学 薬学部 生化学研究室、2)富山大学大学院 医薬理工学環、
3)富山大学大学院 生命融合科学教育部

M-17 タイトジャンクション構成因子クローディン-1を標的とした
表皮細胞間透過促進剤の開発
○内田 美里、照屋 達己、吉野 雄太、遠藤 智史、五十里 彰
岐阜薬科大学 生化学研究室

生物系

M会場(講義室401) 14:10~15:10

座長：小出 裕之(静岡県立大学 薬学部 医薬生命化学教室)
南 彰(静岡県立大学 薬学部 生化学分野)

M-18 小腸炎を起こすグリア細胞特異的 calcineurin ノックアウトマウスの遺伝的背景による
表現型の差異の解析
○龍野 華、八木 孝樹、鷺崎 加奈、平嶋 尚英、田中 正彦
名古屋市立大学大学院 薬学研究科 生体超分子システム解析学分野

M-19 CaMKK2阻害薬の探索を目指した新規スクリーニングアッセイ系の構築
○岡田 一希、道上 七帆、鈴木 良明、近藤 るびい、山村 寿男
名古屋市立大学 薬学部 細胞分子薬効解析学分野

M-20 ヒト肺動脈平滑筋細胞に発現するニコチン性アセチルコリン受容体の生理機能
○中浜 光哉¹⁾、山村 彩²⁾、近藤 るびい¹⁾、鈴木 良明¹⁾、山村 寿男¹⁾
1)名古屋市立大学 薬学部 細胞分子薬効解析学分野、2)愛知医科大学 医学部 生理学講座

M-21 GPR35の脂肪組織マクロファージを介した炎症制御の解析
○杉山 凜、水谷 実里、中西 勝宏、大橋 若奈、梅本 英司
静岡県立大学 薬学部 免疫微生物学分野

M-22 TRPV1⁺ 感覚神経は接触過敏症において
神経ペプチド CGRP を産生することで樹状細胞の移動を促進する
○鎌子 大輔¹⁾、小田切 智幾¹⁾、山中 仁文¹⁾、黒羽子 孝太¹⁾²⁾、梅本 英司¹⁾
1)静岡県立大学 薬学部 免疫微生物学分野、2)名城大学 薬学部 薬学教育開発センター学生実習部門

M-23 接触過敏症の感作相において、
神経ペプチド CGRP は RAMP1 を介して樹状細胞のリンパ節への移動を促進する
○小田切 智幾¹⁾、鎌子 大輔¹⁾、山中 仁文¹⁾、黒羽子 孝太¹⁾²⁾、梅本 英司¹⁾
1)静岡県立大学 薬学部 免疫微生物学教室、2)名城大学 薬学部 薬学教育開発センター

座長: 波多野 紀行 (愛知学院大学 薬学部 医療薬学科 薬効解析学講座)

田中 正彦 (名古屋市立大学大学院 薬学研究科 生体超分子システム解析学分野)

N-1 USP7は Twist の脱ユビキチン化酵素としてがん細胞の運動能獲得に寄与する

○中垣 春奈、渡辺 信、宮嶋 ちはる、井上 靖道、林 秀敏

名古屋市立大学大学院 薬学研究科 細胞情報学分野

N-2 ミャンマー植物由来化合物による**HRI 活性化を介したストレス応答性転写因子 ATF4誘導機構の解析**○山中 翔悟¹⁾、平丸 航太郎¹⁾、水野 佑哉¹⁾、宮嶋 ちはる¹⁾、石内 勘一郎²⁾、牧野 利明²⁾、松野 倫代³⁾、水上 元³⁾、井上 靖道¹⁾、林 秀敏¹⁾

1) 名古屋市立大学大学院 薬学研究科 細胞情報学分野、2) 名古屋市立大学大学院 薬学研究科 生薬学分野、

3) 高知県立牧野植物園

N-3 メチルトランスフェラーゼ SET8による TGF- β シグナル制御機構の解析

○橋口 咲良、長坂 真衣、永尾 優始、宮嶋 ちはる、井上 靖道、林 秀敏

名古屋市立大学大学院 薬学研究科 細胞情報学分野

N-4 Prostaglandin E₂と Caffeine 共処置によるリン酸化 p62の凝集体形成の促進は NRF2の転写亢進を誘導して肝星細胞の活性化を抑制する○渡辺 雄太¹⁾²⁾、山口 桃生¹⁾、土肥 直貴¹⁾、大岡 央¹⁾、齊藤 真也²⁾、石川 智久¹⁾

1) 静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 薬理学講座、2) 岡山理科大学 獣医学部 創薬学講座

N-5 植物由来エキソソーム様ナノ粒子が膵 β 細胞アポトーシスに及ぼす影響の検討○柴田 涼吾¹⁾、金子 雪子¹⁾、山口 桃生¹⁾、森野 純鈴¹⁾、金沢 貴憲²⁾、石川 智久¹⁾

1) 静岡県立大学 薬学部 薬理学分野、2) 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 (薬学域) 薬物治療学分野

座長: 井上 靖道 (名古屋市立大学 薬学部 細胞情報学分野)

宮嶋 ちはる (名古屋市立大学大学院 薬学研究科 細胞情報学)

N-6 ムンプスウイルス特異的シアリダーゼ蛍光イメージング剤の開発○成道 豊¹⁾、高橋 忠伸¹⁾、紅林 佑希¹⁾、大坪 忠宗²⁾、池田 潔²⁾、南 彰¹⁾、竹内 英之¹⁾

1) 静岡県立大学 薬学部 生化学、2) 広島国際大学 薬学部 有機合成化学

N-7 コレステロールはムンプスウイルスの感染増殖に関与する○小長谷 皇文¹⁾、高橋 忠伸¹⁾、紅林 佑希¹⁾、大坪 忠宗²⁾、池田 潔²⁾、南 彰¹⁾、竹内 英之¹⁾

1) 静岡県立大学 薬学部 生化学講座、2) 広島国際大学 薬学部 有機合成化学研究室

N-8 食餌に含まれる神経障害性のある非ヒト型シアル酸分子種の消化機構の解析○中尾 初音¹⁾、南 彰¹⁾、松本 歩¹⁾、平林 義雄¹⁾²⁾、池田 潔³⁾、大坪 忠宗³⁾、紅林 佑希¹⁾、高橋 忠伸¹⁾、竹内 英之¹⁾

1) 静岡県立大学大学院 薬学研究院 生化学講座、2) 理化学研究所、

3) 広島国際大学 薬学部 有機合成化学研究室

- N-9** 視覚臨界期の脳皮質視覚野におけるシアリダーゼ活性の変化とその機能解析
○木村 翔太¹⁾、南 彰¹⁾、大坪 忠宗²⁾、池田 潔²⁾、紅林 佑希¹⁾、高橋 忠伸¹⁾、竹内 英之¹⁾
1) 静岡県立大学 薬学部 生化学分野、2) 広島国際大学 薬学部 有機合成化学研究室

- N-10** *Citrobacter rodentium* 感染時の宿主応答に及ぼすジスルフィラムの影響
○及川 日菜、辻井 彩人、福島 大騎、高橋 圭太、腰塚 哲朗
岐阜薬科大学 薬学部 感染制御学研究室

- N-11** マウスサイトメガロウイルス m42 による CD45 発現抑制機序の解析
○加納 海成、佐々木 悠太、高橋 圭太、腰塚 哲朗
岐阜薬科大学 薬学部 生命薬学大講座 感染制御学研究室

生物系

N 会場 (講義室 402) 13:00 ~ 14:00

座長：竹内 英之 (静岡県立大学 薬学部 生化学分野)
腰塚 哲朗 (岐阜薬科大学 感染制御学研究室)

- N-12** カドミウムによる腎毒性に対する時計遺伝子の影響
○須崎 文菜¹⁾、松下 幸平²⁾、太田 欣哉³⁾、山口 智弘³⁾、前田 徹³⁾、松井 敦聡¹⁾、稲垣 直樹¹⁾、三浦 伸彦⁴⁾、吉岡 弘毅¹⁾
1) 岐阜医療科学大学 薬学部 薬理学分野、2) 国立医薬品食品衛生研究所 病理、3) 金城学院大学 薬学部、4) 横浜薬科大学 薬学部

- N-13** カドミウムの肝臓蓄積と毒性発現における C8γ の機能に関する検討
○山本 勝也¹⁾²⁾、石田 慶士¹⁾、松丸 大輔¹⁾、田中 佑樹³⁾、小椋 康光³⁾、中西 剛¹⁾
1) 岐阜薬科大学、2) 学振 DC、3) 千葉大学大学院 薬学研究院

- N-14** 化学物質誘導性の妊娠期甲状腺機能低下による甲状腺関連指標の変動と胎仔発生毒性の評価
○糟谷 佐保里¹⁾、目加田 京子¹⁾、小泉 茉奈海¹⁾、石田 慶士¹⁾、松丸 大輔²⁾、村嶋 亜紀²⁾、諫田 泰成³⁾、中西 剛¹⁾
1) 岐阜薬科大学 薬学部 衛生学研究室、2) 岐阜薬科大学 薬学部 薬理学研究室、3) 国立医薬品食品衛生研究所

- N-15** 甲状腺ホルモン (TH) による 2, 3, 7, 8-Tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin (TCDD) の尿中排泄促進メカニズムの解析
○富田 俊維¹⁾、Pinyapach Dungkokkruad²⁾³⁾、廣森 洋平⁴⁾、石田 慶士¹⁾、松丸 大輔¹⁾、永瀬 久光⁵⁾、田中 慶一⁶⁾、中西 剛¹⁾
1) 岐阜薬科大学、2) 大阪大学、3) マハサラカム大学、4) 鈴鹿医療科学大学、5) 岐阜医療科学大学、6) 大阪大谷大学

- N-16** 神経分化トレーサマウスを用いた低用量域鉛曝露における発達神経毒性の有害性発現経路に関する検討
○辰巳 佳乃子¹⁾、石田 慶士¹⁾、松丸 大輔¹⁾、永瀬 久光²⁾、諫田 泰成³⁾、田熊 一徹³⁾⁴⁾、中西 剛¹⁾
1) 岐阜薬科大学、2) 岐阜医療科学大学・薬学部、3) 国立医薬品食品衛生研究所、4) 大阪大学大学院 歯学研究科

N-17 化学物質誘導性の周産期甲状腺機能低下による児の脳発達への影響評価

○小泉 茉奈海¹⁾、石田 慶士¹⁾、糟谷 佐保里¹⁾、辰巳 佳乃子¹⁾、目加田 京子¹⁾、松丸 大輔¹⁾、永瀬 久光²⁾、諫田 泰成³⁾、田熊 一敬⁴⁾、中西 剛¹⁾

1) 岐阜薬科大学、2) 岐阜医療科学大学 薬学部、3) 国立医薬品食品衛生研究所、
4) 大阪大学大学院 歯学研究科

生物系

N 会場 (講義室 402) 14:10 ~ 15:10

座長：松丸 大輔 (岐阜薬科大学 衛生学研究室)
金子 雪子 (静岡県立大学 薬学部 薬理学分野)

N-18 アルギニンメチル化酵素 PRMT5 阻害剤は尿管閉塞による腎臓線維化を抑制する

○茂木 飛佑馬¹⁾、刀坂 泰史¹⁾²⁾³⁾、鳴田 竜也¹⁾、川瀬 裕斗¹⁾、砂川 陽一¹⁾²⁾³⁾、浜辺 俊秀¹⁾、小見山 麻紀²⁾、長谷川 浩二¹⁾²⁾、森本 達也¹⁾²⁾³⁾

1) 静岡県立大学 薬学部 分子病態学分野、
2) 国立病院機構 京都医療センター 臨床研究センター 展開医療研究部、3) 静岡県立総合病院 臨床研究部

N-19 クルクミン類似体 A はクルクミンよりも低濃度で膠芽腫細胞の増殖を抑制した

○岩清水 苑夏¹⁾、浜辺 俊秀¹⁾²⁾³⁾、小野 雅也¹⁾、稲井 恭子¹⁾、伊藤 亮¹⁾、砂川 陽一¹⁾²⁾³⁾、刀坂 泰史¹⁾²⁾³⁾、荒川 芳輝⁴⁾、長谷川 浩二¹⁾²⁾、森本 達也¹⁾²⁾³⁾

1) 静岡県立大学 薬学部 分子病態学分野、2) 京都医療センター 展開医療研究部、3) 静岡県立総合病院、
4) 京都大学医学部附属病院 脳神経外科

N-20 神経細胞移動を制御する DAB1 のゲノム編集を用いた HA-tagging による発現分布の解析

○美田 和希¹⁾、福光 秀文¹⁾、仲嶋 一範²⁾、本田 岳夫¹⁾²⁾

1) 岐阜薬科大学 生体機能解析学大講座 分子生物学研究室、2) 慶應義塾大学 医学部 解剖学教室

N-21 Nrf2 活性化がヒト歯髄細胞の移植による脊髄損傷モデルの運動機能回復に及ぼす影響

○安福 友里那¹⁾、中村 海斗¹⁾、長島 光助¹⁾、山田 まこと¹⁾、手塚 健一²⁾、宗宮 仁美¹⁾、福光 秀文¹⁾

1) 岐阜薬科大学 生体機能解析学大講座 分子生物学研究室
2) 岐阜大学大学院 医学系研究科 再生機能医学分野

N-22 ER ファジー受容体 FAM134B の性状解析

○金森 朱音¹⁾、大橋 憲太郎¹⁾²⁾³⁾

1) 岐阜大学大学院 自然科学技術研究科 生命科学・化学専攻、2) 岐阜大学 工学部 化学・生命工学科、
3) 岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科

N-23 Neuro2a 細胞における OSW-1 誘導性ストレス応答の解析

○中村 響¹⁾、大橋 憲太郎¹⁾²⁾³⁾

1) 岐阜大学大学院 自然科学技術研究科 生命科学・化学専攻、2) 岐阜大学 工学部 化学・生命工学科、
3) 岐阜大学大学院 連合創薬 医療情報研究科

A 会場（新 1 号館 7 階 ライフサイエンスホール） 16：20～17：20

特別講演

薬剤師の職能拡大と資質向上を目指して — 医師との協働のために —

座長：山田 成樹（藤田医科大学病院 薬剤部／藤田医科大学 医学部 薬物治療情報学）

演者：武田 泰生（一般社団法人 日本病院薬剤師会）

薬剤師の職能拡大と資質向上を目指して —医師との協働のために—

○武田 泰生

一般社団法人 日本病院薬剤師会

1987年
福岡大学大学院 薬学研究科 博士
課程 修了(薬学博士)

1987年
米国ワシントン大学 医学部
ポスドク研究員

1992年
慶應義塾大学 医学部 生理学教室
助手

1997年
東京都老人総合研究所 主任研究員

2003年
鹿児島大学医学部附属病院 助教授・
副薬剤部長

2012年
鹿児島大学病院 教授・薬剤部長
(2023年3月末 退職)

2022年
一般社団法人 日本病院薬剤師会
会長

現在に至る

現在、「病院機能の分化と連携」と「地域包括ケアシステムの構築」を両輪として、地域の特性に合わせた地域医療構想が2025年の一応の完成を目指して急ピッチで進められています。地域全体で薬物治療管理を充実させるには、病院－薬局間の薬薬連携に加えて、病床機能別施設間の連携、すなわち病院・診療所薬剤師間の連携が極めて重要です。様々な状況により急性期医療が必要になった患者は対応する病院へ入院し治療を受けます。身体機能の回復に伴い回復期リハ、慢性期医療、そして在宅・外来診療へと移行し、日常の状態へと復帰されます。このように患者の病状に合わせた薬物治療管理を薬剤師同士が連携してシームレスにつなぎ、可能な限り速やかに日常の状態に回復していただくことが、薬剤師の職能ではないでしょうか。この連携を充実させるためにも病棟薬剤業務の実施が必要です。

一方、2024年からスタートする医師の働き方改革の一貫で進められているのが医師の業務負担軽減に向けたタスク・シフト／シェアの推進です。現在、医師が担っている業務の一部を他の医療職種が実施可能な業務として整理され、薬剤師に対しても、6つの項目が現行法の下で実施可能な業務として提示されました。その多くが病棟において医師と協働で行う業務になっています。このように、病棟業務を展開してこそ連携が機能すると共に、タスク・シフト／シェアの推進、ひいては医療の質の向上に貢献できると考えます。

しかし、多くの病院施設で薬剤師不足が問題となっており、薬剤師が病棟に配置できず、病棟活動やチーム医療への参画ができていないのが現状です。また薬剤師の地域間および業態間の偏在も深刻で、厚生労働省が調査した薬剤師の偏在指標によれば、ほとんどの都道府県で病院薬剤師が不足していることが指摘されています。

本講演では薬剤師を取巻く現状と課題、今後求められるあるべき姿について概説するとともに、日本病院薬剤師会の活動について紹介します。

一般演題

C-1

小児のバンコマイシン治療における初期投与設計 PAT を用いたシミュレーションとガイドラインの 妥当性に関する検討

○長谷川 真由、梅村 拓巳、松本 真依子、後藤 俊晃、
山田 哲也
公立陶生病院

【目的】2022年12月、日本化学療法学会が公開するバンコマイシン (VCM) TDM ソフトウェア PAT がバージョンアップされ、小児への対応が可能となった。今回我々は小児患者のバンコマイシン初回投与設計における PAT 使用の妥当性について検証を行った。

【方法】2018年5月から2022年12月において公立陶生病院 (当院) 入院中、VCM を投与し血中濃度を測定した小児患者を対象とした。血中濃度は4回目の投与直前 (トラフ値) を測定した。対象患者における実際の投与量、抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン2022 (GL) の推奨量と PAT でのシミュレーション量を比較した。シミュレーション量においては患者の年齢、体重、SCr を入力し、投与間隔は GL に従い適正トラフ値 ($10 \sim 15 \mu\text{g/mL}$) となる用量を算出した。

【結果】VCM 投与患者12名のうち7名が濃度を測定されていた。GL 推奨量で投与した3名の患者のうち、2名 (66.7%) が適正トラフ値、GL 推奨量より低用量で投与した患者4名のうち、1名 (25%) が適正トラフ値であった。GL 推奨量で投与した3名はシミュレーション推奨量も同量を示した。GL 推奨量より低用量で投与した患者4名のうち2名はシミュレーション推奨量が GL 推奨量を示し、ほかの2名は投与量とシミュレーション推奨量が同量を示した。

【考察】PAT では小児のクリアランス推定式に血清クレアチニン値が含まれている。今回行ったシミュレーションでの推奨量は、GL 推奨量と大きく変わらない症例が多く、シミュレーションは初回投与設計に大きく影響しない可能性が示唆された。今回の症例には腎機能障害を有する患児がおらず、そのような症例においては GL に従った用量での開始で問題ない可能性が示唆された。今後はこれらの結果を基に初回投与設計を行い、TDM を実施しながら適正トラフ値を保った治療を提供できるよう確認していきたい。

C-2

1点採血 AUC 値に基づいた バンコマイシン投与設計の有用性

○小野 友利恵¹⁾、丹羽 隆²⁾、山田 悠人²⁾、
大坪 愛実²⁾、鷺見 和之²⁾、小林 亮¹⁾²⁾、
鈴木 昭夫¹⁾²⁾

1) 岐阜薬科大学

2) 岐阜大学医学部附属病院

【目的】2022年の TDM ガイドライン改訂により、バンコマイシン (VCM) の投与設計の指標がトラフ値から AUC 値へと変更となった。また、AUC の算出には、これまでの1点採血でなく、2点採血が推奨されたが、2点採血は患者・医療者ともに負担が大きく、実臨床ですべての症例に実践することは難しい。一方、トラフ値算出のために行われている1点採血においても同様に AUC 値は算出可能である。そこで、本研究では1点採血での AUC 値に基づく VCM の投与設計の有用性を腎障害の発生率を指標として評価した。

【方法】岐阜大学医学部附属病院では、ガイドライン改訂に対応し、2021年2月から VCM の投与設計の指標をトラフ値から1点採血の AUC 値へと変更した。本研究では、腎障害の発現を指標として、変更前 (2017年2月から2021年1月) にトラフ濃度に基づいて投与設計を行った症例 (トラフ値群) と変更後 (2021年2月から2022年9月) に1点採血から算出した AUC 値に基づいて投与設計を行った症例 (AUC 値群) を対象とした。対象期間の患者データを電子カルテより後方視的に取得し、比較検討を行った。AUC の算出については、「バンコマイシン TDM ソフトウェア PATver. 2.0」を使用した。本研究は岐阜大学大学院医学研究科および岐阜薬科大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】対象患者はトラフ値群137例、AUC 値群72例であった。腎障害の発症率は、トラフ値群で17.4%、AUC 値群で2.8%であり、AUC 値群で腎障害発生率が有意に低下した。 ($P=0.002$)。多変量 Cox 比例ハザード解析で、1点採血の AUC 値による投与設計は腎障害の発現を低下させる独立した要因であった (年齢調整 HR、0.165 ; 95%CI、0.04-0.70 ; $P=0.015$)。

【結論】VCM による腎障害の発生を減少させるためには、1点採血の場合でも、AUC 値に基づく投与設計を行うことが有用であることが明らかとなった。

日本病院薬剤師会東海ブロック・
日本薬学会東海支部合同学術大会 2023
プログラム・講演要旨集

2023年11月12日発行

発行人：山田 成樹

印刷：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>